

はじめに

近年、都市化や少子高齢化に加えて、グローバル化の進展や絶え間ないデジタル技術の革新などにより社会環境や生活環境は急激に変化し、それに伴い児童生徒の健康課題も多様化、複雑化しています。このような健康課題の解決を図るためにも、学校における健康教育は重要な役割を担っています。

また、新型コロナウイルス感染症については、その対応の長期化とともに、新たな変異株の出現など、いまだ予断を許さない状況が続いており、各学校においては、持続的に児童生徒の学びを保障するため、感染防止に配慮しながらの教育活動など、お忙しい日々をお過ごしのことと拝察いたします。

がんについては、生涯のうち二人に一人がかかるといわれる中、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は、まだまだ不十分であり課題であると指摘されております。この課題解決のためには、学校教育を通じて、がんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができる児童生徒を育成することが必要です。

また、埼玉県がん対策推進条例が平成25年12月24日に公布・施行され、その中でも、県は、学校において、がんの予防の推進を図るため、児童生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策を講ずるものとされており、学校における健康教育において、がんを取り上げた教育を推進することは、大変重要であると考えます。

さらに、学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校においては、新たにがんについても取り扱うことが明記されたことから、新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発が必要となりました。

こうした中、埼玉県教育委員会では平成27年度から、文部科学省の委託事業を受け、「がん教育総合支援事業」を実施しております。

具体的な取組としては、学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた「がん教育推進連絡協議会」を立ち上げ、本県のがん教育の推進に向けた指導・助言をいただきながら、主に教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」や小学校・中学校・高等学校のモデル校における「がん教育授業研究会」を開催いたしました。

本報告書は、「がん教育総合支援事業」における令和3年度の取組の概要や成果等についてまとめております。すべての学校において、掲載しております指導実践例等を活用していただき、教職員の共通理解の下、家庭や地域の専門機関等と連携を図りながら、がん教育の充実が図られることを期待しております。

結びに、本事業の円滑な推進に御尽力いただきました、一般社団法人埼玉県医師会、埼玉県公立小学校校長会、埼玉県中学校長会、埼玉県高等学校長協会、さらには授業を御提供くださいました草加市教育委員会、草加市立八幡小学校、加須市教育委員会、加須市立加須平成中学校、県立北本高等学校をはじめ各関係機関、団体の皆様に深く感謝申し上げます、御礼とさせていただきます。

令和4年2月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長
松中 直司

目 次

I	令和3年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」	
1	事業の趣旨	1
2	事業内容	1
3	実施内容	1
4	他部局との連携	3
5	医療機関との連携	4
6	事業の成果	4
7	課題	5
8	令和4年度の事業について	6
II	令和3年度 埼玉県がん教育指導者研修会	8
III	令和3年度 埼玉県「がん教育」授業研究会	
1	草加市立八幡小学校	25
2	加須市立加須平成中学校	41
3	県立北本高等学校	52
IV	令和3年度 埼玉県がん教育推進連絡協議会	
1	がん教育推進連絡協議会設置要綱	63
2	令和3年度埼玉県がん教育推進計画	65
3	がん教育推進連絡協議会委員名簿	66

I 令和3年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」について

1 趣 旨

平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。また、政府が策定するがん対策推進基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。さらに、学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされた。

このような状況を踏まえ、新学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた取組の充実及び外部講師の活用を図るための体制を整備していく必要がある。

そこで、本県では、学校におけるがん教育の推進を図るため、文部科学省委託「がん教育総合支援事業」を実施する。

本事業の実施により、子供たちが健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成するとともに、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図る。

2 事業内容

- (1) がん教育推進連絡協議会の開催
- (2) がん教育指導者研修会の開催
- (3) がん教育授業研究会の開催

3 実施内容

- (1) 連絡協議会について（年2回開催）

がん教育の推進を図るため、学識経験者や医療関係者等で構成される「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言を行うとともに、事業成果の検証を行う。

ア 第1回協議会（がん教育推進計画の検討・決定）

日時 令和3年7月16日（金）午後2時30分～ 知事公館

- 「がん教育推進連絡協議会」について
- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 外部講師の活用について

イ 第2回協議会（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）

日時 令和4年1月14日（金）午後2時30分～ Zoomによるオンライン開催

- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 成果の検証

※ がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

- (2) がん教育指導者研修会について

教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法

等を充実させることを目的として「がん教育指導者研修会」を開催する。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、実践者による発表、有識者による講演、質疑等を通して、教職員及び外部講師等の資質向上を図る。

- ア 日 時 令和3年9月15日（水）午後1時15分～午後4時30分
イ 会 場 Zoomによるオンライン開催
ウ 対 象 県内公立小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教職員、市町村教育委員会指導主事、外部講師関係者

エ 内 容

- (ア) 行政説明 県教育局県立学校部保健体育課
(イ) 実践発表 令和2年度モデル校
小学校実践校 上里町立長幡小学校 小久保幹則 校長
上里町立七本木小学校 矢内 里美 教諭
(元上里町立長幡小学校)
中学校実践校 川口市立戸塚中学校 川俣 泰幸 教諭
高等学校実践校 県立栗橋北彩高等学校 黒崎 直樹 教諭
(ウ) 講 演 「学校におけるがん教育の推進
～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」
講師 国立大学法人筑波大学 名誉教授 野津 有司 氏

(3) がん教育授業研究会について

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的とした「がん教育授業研究会」を開催する。

内容の取扱いについては、各学校種の発達の段階に応じたものとし、中学校及び高等学校においては、新学習指導要領（保健体育科）に対応したものとする。

- ※指導内容
- ア がんとは、がんの要因
 - イ がんの種類とその経過
 - ウ 我が国のがんの状況
 - エ がんの予防
 - オ がんの早期発見・がん検診
 - カ がんの治療法
 - キ がん治療における緩和ケア
 - ク がん患者の生活の質
 - ケ がん患者への理解と共生

※研究協議テーマ 「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」

ア 小学校授業研究会

- (ア) 日 時 令和3年11月30日（火）午後1時15分～午後4時30分
(イ) 参加者 県内公立小学校教職員等
(ウ) 会 場 草加市立八幡小学校
(エ) 授業者 佐藤 優樹 教諭（T1）
儀賀 理暁 教授（T2）
(埼玉医科大学総合医療センター)
(オ) 題 材 特別活動「健康な生活と命の大切さ」
学級活動
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- イ よりよい人間関係の形成
- ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

イ 中学校授業研究会

- (ア) 日 時 令和3年10月26日(火) 午後1時30分～午後4時15分
- (イ) 参加者 会場校教職員等
- (ウ) 会 場 加須市立加須平成中学校
- (エ) 授業者 澁谷 裕貴 教諭
- (オ) 単 元 保健体育(保健分野)
 - (1) 健康な生活と疾病の予防
 - (ウ) 生活習慣病などの予防

ウ 高等学校授業研究会

- (ア) 日 時 令和3年11月12日(金) 午後1時30分～午後4時30分
- (イ) 参加者 県内公立高等学校及び特別支援学校の教職員
- (ウ) 会 場 県立北本高等学校
- (エ) 授業者 川尻 鈴ノ介 教諭
- (オ) 単 元 保健体育(科目保健)
 - (1) 現代社会と健康
 - (ウ) 生活習慣病などの予防と回復

(4) 効果的な指導方法の実践研究

- ・発達の段階に応じた効果的ながん教育を行うための指導方法の実践研究
(「がん教育」における小・中・高の系統的な保健教育の実践研究を行う。)

【構造化された授業の提案】

- ・学習内容の明確化(1時間に何を学ばせるのか、何を学んだのかが明らかな 授業)
- ・基本的・基礎的な内容を理解させるための学習活動の工夫
- ・主体的に学習に取り組ませるための教材の工夫
- ・教科等横断的ながん教育の提案
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

4 他部局との連携

保健医療部疾病対策課と連携を図り、外部講師の積極的な活用へ向けた取組を行う。

- (1) がん教育における外部講師の活用に係る事業(「がん教育出前講座」等)の学校への周知等を行い、外部講師の活用を促進する。
- (2) がん教育外部指導者研修会を開催し、外部講師等の資質向上を図る。(予定)
 - ア 日 時 令和4年2月3日(木) 午後6時30分～午後8時30分まで
 - イ 会 場 ハイブリット方式(埼玉会館ラウンジ又はWeb視聴)
 - ウ 参加者 医療従事者、がん経験者等
教育関係者(市町村教育委員会担当者等)

エ 内 容

- (ア) 行政説明① 県教育局県立学校部保健体育課
- (イ) 行政説明② 県保健医療部疾病対策課
- (ウ) 講 義① 「外部講師によるがん教育について」
講師：埼玉医科大学総合医療センター教授 儀賀 理暁 氏
- 講 義② 「外部講師に求められること」
講師：NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 氏

(エ) 質疑応答

5 医療機関との連携

埼玉医科大学総合医療センター主催「SMCがん教育セミナー」の後援

ア 日時 令和3年8月3日(火)午後1時00分～午後4時45分

イ 会場 Zoomによるオンライン開催

ウ 内容

(ア) 基調講演① 県教育局県立学校部保健体育課指導主事 咲間 悟 氏

(イ) 基調講演② NPO法人くまがやピンクリボンの会代表理事 栗原和江 氏

(ウ) 基調講演③ 聖マリアンナ医科大学客員教授 林和彦 氏

(エ) 鼎 談 「がん教育」の“かぎかっこ”がなくなる日
咲間 悟 氏・栗原 和江 氏・林 和彦 氏
司会：儀賀 理暁 氏

(オ) 質疑応答

6 事業の成果

学校におけるがん教育の推進を図るためには、新学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた取組の充実及び外部講師の活用を図るための体制の整備などが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言をいただいた。策定した計画に基づく各種の取組を実施することにより、学校における効果的ながん教育の在り方などについて、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」指導者研修会

ア がんに関する指導に携わる教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を深めること、及び学校におけるがん教育の指導の充実を図るための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ 行政説明において、学校におけるがんに関する内容の教育課程への位置付けの例を挙げるなど、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。

ウ 筑波大学名誉教授 野津 有司氏による講演「学校におけるがん教育の推進～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」により、新学習指導要領に基づくがん教育をはじめとする保健教育の効果的な指導方法など授業づくりの考え方、進め方について理解を深めることができた。

(2) 授業研究会について

ア 新型コロナウイルス感染症の影響により、授業検討委員会の実施は叶わなかったが、授業者及び関係の指導者が授業計画段階から綿密に打ち合わせや検討を重ねたことにより、各学校種の発達段階に応じた効果的な指導方法の提案ができた。また、公開授業による実践を踏まえた充実した研究協議を行うことができた。

イ 高等学校モデル校において、来年度からの年次進行実施を見据え、新学習指導要領を踏まえた授業内容を検討し、実践したことにより、各学校において参考となる学習指導案及びワークシートを作成することができた。

ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。

エ 小学校のモデル校では、体育科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動の教科等横断的な取組を実施。公開授業では、学級活動(2)において「病気の予防や望

ましい生活習慣の確立」及び「自他の健康や命、人との関わりを大切にし、共に生きていく態度」について意思決定する内容で教師と外部講師（がん専門医）によるT・T（ティーム・ティーチング）による指導方法の工夫を取り入れることにより、児童は自分事として捉えるとともに、具体的な意思決定をすることができた。

オ 中学校のモデル校では、保健体育科保健分野において、身近な生活における「運動・食事・休養及び睡眠・歯みがき」とがんの関係を班に分かれてICT機器を活用して調べ、その内容を全体で共有した後、生徒一人一人が「がんの予防に向けて、今そしてこれからの自分にできることはなんだろう」に対する具体的な生活習慣の改善や行動目標を決定する授業を実施した。予防行動に関する具体的な内容に加えて、情報リテラシーに関わる内容も盛り込まれた授業で、生徒の現愛及び将来の健康の保持増進に向けた実践につながる内容であった。

カ 高等学校のモデル校では、保健体育科科目保健の授業を実施した。各班に違った資料を分析させ、全体で共有する中で各資料を結び付けて考えさせる、知識構成型ジグソー法の要素を取り入れた、思考力・判断力・表現力を重視した学習活動により生徒の理解を深めることができた。また、「どうすればがん検診の受診率を上げることができるか」という、習得した知識を活用する学習活動にも取り組むなど、がんを題材として、社会的な取組も含めた高校生の発達の段階に応じた総合的な理解を深めることができた。

(3) 外部機関・外部講師との連携について

ア 医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター 教授 儀賀理暁氏が実施する、「がん教育セミナー」では、医療関係者と教育関係者が共に研修を行ったことで、各々の取組内容を情報共有でき、効果的な指導法や連携の仕方を考える機会となった。

イ 小学校の授業研究会において、教師と外部講師（がん専門医）とのT・Tによる指導を実施し、オンラインコミュニケーションツールを活用した事前打ち合わせによる学校と外部講師の共通理解のメリット、インタビュー形式による効果的な授業展開など、外部講師と連携したがん教育の今後の一層の推進につながる提案ができた。

7 課題

(1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア がん教育について明記された新学習指導要領について、令和3年度には中学校において全面実施され、令和4年度には高等学校において年次進行で実施されることから、各学校種において新学習指導要領に対応したがん教育を効果的に実施できるよう周知していく。また、学習指導要領に位置付けのない小学校についても、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。

イ がん教育の目標を達成するためには、保健の授業でがんに対する正しい知識を身に付けさせ、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について学習していくことが必要である。体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなる取組を継続して提案していくことが課題である。

ウ 小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

(2) 外部講師の活用について

ア 保健医療部疾病対策課「がん教育出前講座」は、引き続き連携・協力していく。

イ 外部講師の選定・依頼・派遣については、保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを進めている。外部講師を対象とした研修会を開催するとともに、出前講座や授業研究会への見学研修を実施し、外部講師のリストを作成していく。

ウ 外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」の参加も促していく。

(3) 研修会等の充実と普及・推進

ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

8 令和4年度の事業について

(1) がん教育推進連絡協議会の実施 (継続)

ア 日 時

(ア) 第1回 協議会 令和4年7月12日(火) 知事公館※予定

(イ) 第2回 協議会 令和5年1月11日(水) 知事公館※予定

イ 内 容

(ア) 本県のがん教育推進に向けた計画の検討

(イ) 本県のがん教育に関する計画の検証・成果報告

(2) がん教育指導者研修会の実施 (継続)

がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。

ア 日 時

令和4年9月13日(火) オンライン開催※予定

イ 内 容

(ア) 行政説明

(イ) 実践事例発表

(小学校) 草加市立八幡小学校

(中学校) 加須市立加須平成中学校

(高等学校) 県立北本高等学校

(ウ) 講 演

東海大学体育学部 教授 森 良一 氏

演題 「未定」

(3) がん教育授業研究会の実施 (継続)

ア 指導内容について

(ア) がんについて正しく理解することができるようにする。

・保健体育(保健教育)の充実を図る。

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保健教育の授業改善を図る。

(イ) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校教育全体を通じて指導を行う。

(ウ) 授業検討委員会を設置し、発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、系統性を踏まえた指導計画を作成する。

イ モデル校について

モデル校（市町村教育委員会）の選定については、東西南北の地域のバランスを考慮し、実施していく。

(4) 外部講師の活用について

ア 医師・がん経験者等を対象とした「埼玉県がん教育外部講師研修会」を開催する。その際、外部講師による授業の映像を視聴するなど、より実践的な内容になるよう工夫する。また、開催をオンラインで行うことについても検討する。

イ 学校から、がん教育の外部講師の派遣依頼があった場合については、県保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを整備する。また、現在疾病対策課で行っている講師の選定について、部分的に拠点病院へ移行していくことを検討する。

ウ がん教育授業研究会において、小・中・高等学校のいずれかの校種で、公開授業と外部講師による事後指導を組み合わせたモデル授業を実施する。

エ がん教育授業研究会や外部講師による事後指導について、がん拠点病院・指定病院の医師や、がん患者会、がん経験者等が参加できるよう工夫する。

(5) 関係機関との連携

県教育委員会と医療機関が連携した研修会を次年度も計画していく。

ア 文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を受託し、引き続きがん教育の推進を図っていく。

イ がん教育推進連絡協議会は、今年度と同様2回開催し、本県のがん教育推進のための計画、方向性、普及の仕方を検討し、各委員から指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については、各関係団体に依頼する。

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和3年度埼玉県がん教育指導者研修会開催要項（オンライン開催）

1 趣 旨

日本人の死因の第1位であり国民の生命と健康にとって重大な問題であるがんについて、がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分であり課題であると指摘されている。

この課題の解決のためには、学校におけるがん教育により、子供たちが健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成するとともに、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図ることが必要である。

学校におけるがん教育の充実を図るため、その必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発が行われるよう研修会を開催する。

2 開催日時

令和3年9月15日（水） 午後1時15分から午後4時30分（接続：午後0時45分～）

3 会 場

Z o o mによるオンライン開催（ライブ配信）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催方法を変更。

※参加方法については、別紙の「Z o o mウェビナー参加マニュアル」を参照。

4 主 催

埼玉県教育委員会

5 参加対象者

- (1) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校において、がん教育を行う教員（体育科・保健体育科及び特別活動、道徳科等を担当する教職員）
- (2) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に勤務する管理職及び教職員
- (3) 市町村教育委員会の指導主事等
- (4) 学校医等及び外部講師によるがん教育に関心のある方（医療従事者、がん経験者等）

6 日 程 ※閉会行事後にアンケートに回答していただきます。

12:45	13:15	13:20	13:35	14:35	14:45	16:15	16:25	16:30
接 続	開 会 行 事	行政説明 15分	実践事例発表 60分	休憩	講 演 90分	質 疑 応 答	閉 会 行 事	

7 内 容

- (1) 行政説明 教育局 県立学校部保健体育課 指導主事 咲間 悟
- (2) 実践事例発表
 - ・小学校指導事例 第6学年 特別活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
「健康と命の大切さ」
上里町立長幡小学校 校 長 小久保 幹則
上里町立七本木小学校 教 諭 矢内 里美
(元 上里町立長幡小学校)
 - ・中学校指導事例 第2学年 保健体育（保健分野）
「健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防
川口市立戸塚中学校 教 諭 川俣 泰幸
 - ・高等学校指導事例 第1学年 保健体育（科目保健）
「現代社会と健康」 イ 健康の保持増進と疾病の予防
県立栗橋北彩高等学校 教 諭 黒崎 直樹
- (3) 講 演
「学校におけるがん教育の推進 ～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」
講 師 国立大学法人筑波大学 名誉教授 野津 有司 氏

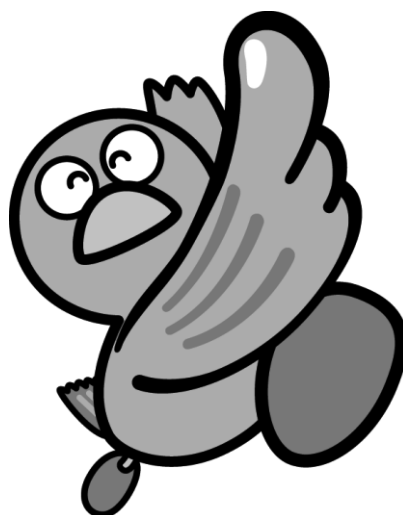
<講演資料>

「学校におけるがん教育の推進

～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」

講 師 国立大学法人筑波大学

名誉教授 野津 有司 氏



学校におけるがん教育の推進

—新学習指導要領の考え方を踏まえて—

筑波大学名誉教授 野津 有司

(Email : nozuyuji001@yahoo.co.jp)

「アクティブ・ラーニング」の考え方（議論の経過）

教育課程企画特別部会「論点整理」（平成27年8月26日）

➢ 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び

総則・評価特別部会 第5回（平成28年2月24日）

➢ 深い学び、対話的な学び、主体的な学び

総則・評価特別部会 第6回（平成28年3月14日）

➢ アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善

① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた、

深い学びの過程が実現できているかどうか。

② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める。

対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次に

つなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年8月）

➢ 主体的・対話的で深い学び

3

学習指導要領改訂(第9次)に係る議論の経過

平成26年11月 中央教育審議会総会

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問

平成26年12月 教育課程企画特別部会の設置

新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方、

教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り方等に

関する基本的な方向性について検討(14回)

平成27年 8月 「論点整理」

平成27年11月 総則・評価特別部会および教科等別・学校種別WGの設置

論点整理の方向に沿って専門的に検討

平成28年 8月 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめに

ついて(報告)」

平成28年12月 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の

学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

平成29年 3月 小学校学習指導要領 告示

中学校学習指導要領 告示

平成30年 3月 高等学校学習指導要領 告示

・小学校は令和2(2020)年度から、中学校は令和3(2021)年度から全面实施。

・高校は令和4(2022)年度から年次進行により実施。

2

教育改革のための 学校におけるストラテジー

学校文化の変革



(作図:野津有司 2013)

「がん」について、
あなた自身が知りたいことをできるだけ多く挙げてみよう？

➢ 「がん」について、知っていることが多い人ほど、
もっと知りたいことや疑問などがたくさん出てくる
かも?!



1.ブレインストーミングとは

- ◆ 「Brain Storming (頭にあらしが吹く)」の名の如く、頭の動きを活発にして、ある問題に対してアイデアや思いつきを自由奔放に出し合う、集団思考法の一つ。
- ◆ 他人の意見やアイデアから連想が起こり、一人の頭の中で考えるよりも豊かな発想で思考することができる。



2.ブレインストーミングの4原則

- ① 自由な発想で自由に思考し、短く発言する。
- ② 出されたアイデアについて、その場で互いに良い悪いを言わない。(批判しない、議論しない)
- ③ できるかぎり多くのアイデアを出す。
- ④ 出されたアイデアの結合、変形、改善でも良い。



がん教育の授業づくりのポイント①

- ✓ 「がん」について、自分自身が理解を深めるために習得した知識・情報を、その素材のまま児童生徒にすべて教え込むような、いわゆる「知識伝達型」の授業に陥らないようにする！
⇒がんの教育内容を子供たちが効果的に学習するための本々となりうる素材を吟味・精選して、教材化する必要がある。

がん教育の授業づくりのポイント②

- ✓ 無意味な重複・繰り返しとなるがんの授業は、極力避けるようにしなければならない！
⇒小・中・高校生の発達段階と配当時間を踏まえ、系統性のあるがんの授業とする必要がある。
⇒そのために、勤務校種の保健の教科書の教材解釈にとどまらず、学習指導要領及び解説の内容を正しく理解するとともに、他校種における内容についても見渡して、授業案を構想することが求められる。

Ishikawa Health Education (IHE) Study

がん教育の中核となる体育科・保健体育科の学習指導要領を理解すること

- 児童生徒の発達の段階を踏まえて系統的に、配当時間に基づいて計画的に学習指導する。
- 学習指導要領：教えるべき内容
学習指導要領解説：具体的な内容についての解説
教科書：学習指導要領に準拠した主たる教材
副教材：自作等による補助的な教材

(野津有司)

9

小学校体育科保健領域

(3) 病気の予防

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

⑦ 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。なお、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

(平成29年告示 小学校学習指導要領解説 体育編)

10

中学校保健体育科保健分野

(1) 健康な生活と疾病の予防

(ウ) 生活習慣病などの予防

① がんの予防
がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、①の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

(平成29年告示 中学校学習指導要領解説 保健体育編)

11

高等学校保健体育科目保健(平成30年)(1-7)

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法(抗がん剤など)、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

(高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編、平成30年)

総合的な学習の時間

第1. 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

(平成29年告示 小学校学習指導要領)

13

特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容
〔学級活動〕

2. 内容

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 基本的な生活習慣の形成
- イ よりよい人間関係の形成
- ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

(平成29年告示 小学校学習指導要領)

14

特別の教科 道徳

第2. 内容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- 〔規則の尊重〕
- 〔公正、公平、社会正義〕
- 〔勤労、公共の精神〕
- 〔家族愛、家庭生活の充実〕
- 〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕
- 〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕
- 〔国際理解、国際親善〕

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- 〔生命の尊さ〕
- 〔自然愛護〕
- 〔感動、畏敬の念〕
- 〔よりよく生きる喜び〕

(平成29年告示 小学校学習指導要領)

15

がん教育の授業づくりのポイント③

- ✓ 今後大きく発展・変化するがんの科学や情報に適切に対応できたり、他の病気や未知の健康課題にも適用できるような汎用的な課題解決能力を育成することが重要である！
- ⇒ 新学習指導要領で明確に示された「主体的・対話的で深い学び」を実現することが、著しく変化する社会、予測困難な課題に向き合う資質・能力を育成するものと考えられる。
- ⇒ そこで、がん教育においても、主体的、対話的で深い学びを保証する教材開発や指導方法の工夫が急務である。

(野津有司 2019) 16

まずは、ドミノクイズで、
がんの知識を確かめよう！



【授業の導入の工夫】

授業の導入は、

その後の展開を決定的に左右する！

(野津有司, 2015)

- ✓ 相撲で言えば、勝敗を左右する「立ち合い」。
- ✓ 投手で言えば、打者に対する「第1球」。

次の人たちに、
共通することは何でしょう？



例えば、小学生には、
「次の人たちに、
共通することは何でしょう？」

例えば、高校生には、
「これらの人たちは、がん経験者であることを
公表して、
・意図することが何かあるだろうか？
・何を伝えようとしているのだろうか？」

Tsukuba Health Education (THE) Study

「がんを防ぐための新12か条」 を予想してみよう！



21

がんを防ぐための新12か条

- 「がん予防の12か条」
 - ・1978年より提供。
 - ・学問的に、当時常識とされていたことをまとめ、がん予防のための生活改善情報として重視。
- 「がんを防ぐための新12か条」
 - ・2011年に改訂。
 - ・日本人を対象とした疫学調査や現時点で科学的に妥当な研究方法で明らかとされている証拠をもとに見直し、改訂。

22


がんを防ぐための12か条 (1978年)	がんを防ぐための新12か条 (2011年)
1. バランスのとれた栄養をとる 2. 毎日変化のある食生活を 3. 食べすぎをさげ、脂肪は控えめに 4. お酒はほどほどに 5. たばこは吸わないように 6. 食べ物から適量のビタミンと繊維質 のものを多くとる 7. 塩辛いものは少なめに、あまり熱い ものは冷ましてから 8. 焦げた部分は避ける 9. かびの生えたものに注意 10. 日光に当たりすぎない 11. 適度にスポーツをする 12. 体を清潔に	1. たばこは吸わない 2. 他人のたばこの煙をできるだけ避ける 3. お酒はほどほどに 4. バランスのとれた食生活を 5. 塩辛い食品は控えめに 6. 野菜や果物は豊富に 7. 適度に運動 8. 適切な体重維持 9. ウイルスや細菌の感染予防と治療 10. 定期的ながん検診を 11. 身体の異常に気がついたら、 すぐに受診を 12. 正しいがん情報でがんを知ることから

青字：旧版のみ 赤字：新版のみ (公益財団法人がん研究振興財団)

23

Tsukuba Health Education (THE) Study

「がん12か条」がこのように変わった 背景、理由、科学的根拠(エビデンス) について、インターネットを使って、 調べてみよう！ 探してみよう！



24

【授業のまとめの工夫】

「がんについて、これからも関心を持ち続け、自ら正しい情報をとらえて、考え判断し、実践・行動していくこと、それが今後に向けて最も大事なことです。」

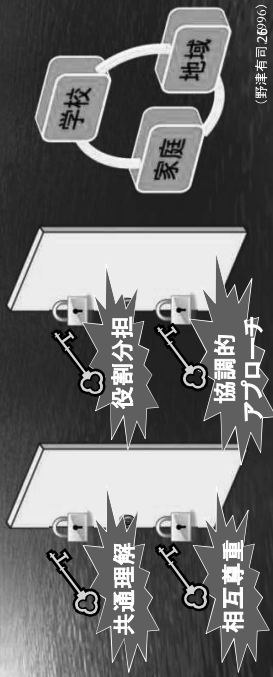
⇒授業後も、継続的、応用的、発展的なメッセージとなるようにまとめることが、一つの工夫として望まれる！



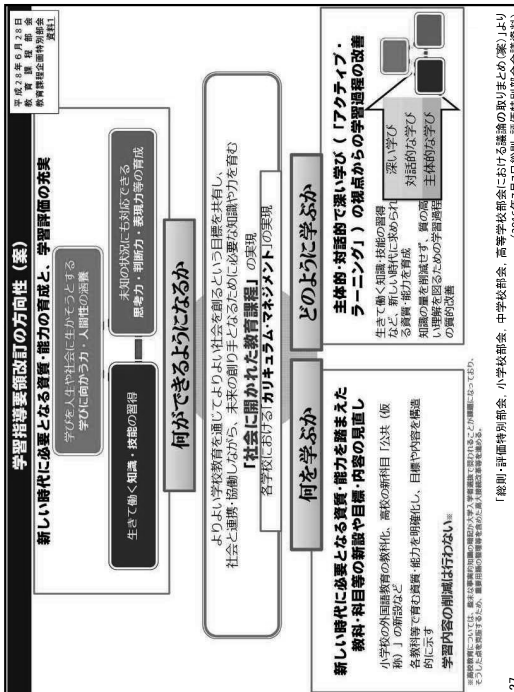
(野津有司, 2020) 25

学校・家庭・地域の有機的連携のために 必要な鍵とは何か？

二重ロックのかかった2つのドアを開ける如く、難しい…。しかし、これらの4つの鍵をしっかりと踏み踏まえることで、実現可能である！



(野津有司 2019)



27

外部講師を用いた がん教育ガイドライン

平成28年4月

文部科学省

(文部科学省ホームページより: http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_ics/Files/infodfile_201606161309991.pdf) 28

1. (外部講師を活用した)がん教育の進め方の基本方針

- ① 講師の専門性やこれまでの経験が十分生かされるように工夫する。
- ② 学校教育活動全体で健康教育の一環として行う。
- ③ 発達段階を踏まえた指導を行う。

(文部科学省, 2021 一部改訂)

29

2. 外部講師を活用したがん教育の進め方のポイント

- ① 学校が主体となって企画・運営を行う。
- ② 核となる教員や授業を担当する教員だけが関わるのではなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- ③ 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- ④ 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

(文部科学省, 2021 一部改訂)

30

(文部科学省, 2021 一部改訂)

(外部講師を活用した)がん教育実施上の手順(例) 表1 準備・事前指導

企 画	打 合 せ	準 備・事 前 指 導
保健主事や授業を担当する保健体育教師や学級担任などを中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用したがん教育を企画する。 ・どんなテーマで ・どんな ・だれを講師に	外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。 また、教科書やがん教育にかかわるビデオ、パンフレットなどの資料を準備し、外部講師を活用したがん教育の講師予定者との打合せに備える。 外部講師を活用したがん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品等 ・指導上の留意事項の確認	当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。
外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整		資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 講師と教員との役割分担についても確認する。

31

(文部科学省, 2021 一部改訂)

(外部講師を活用した)がん教育実施上の手順(例) 表2 実施段階の手順(例)

外部講師を活用したがん教育	事後指導	評価まとめ
本時におけるがん教育の目的・ねらいの説明、講師の紹介等を行う。 外部講師を活用したがん教育を実施する。	学校の実情に応じて、各教科等の学習内容と関連付けた指導を行う。 児童生徒と外部講師との質疑応答の機会を設けるとともに、振り返りの時間を確保する。	成果や課題について担当者で話し合い、次年度に外部講師を活用したがん教育に生かす。 また、この結果は全ての教職員で共有する。
講師との最終確認を行い、がん教育を実施する。	外部講師に授業実施後の感想などを尋ねるとともに児童生徒からの質問や感想などを提供し、指導上の課題や児童生徒の実施後の指導などについて話し合う。	講師及び講師の所属先に礼状を出す。
講師との最終確認を行い、がん教育を実施する。		

32

3. (外部講師を活用した)がん教育実施上の留意点

(1) 実施形態

学校全体での実施、学年単位での実施、学級単位での実施など
⇒実施形態の特性を踏まえた指導の内容や方法の工夫を！

(2) 外部講師

- ・がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合：
⇒学校医、がん専門医などの医療従事者による指導が望まれる。
- ・健康や命の大切さをねらいとした場合：
⇒がん患者、がん経験者による指導がより効果的と期待される。

(文部科学省, 2021 一部改訂)

33

野津有司による

外部講師のための8か条 (2019年)

1. 事前に、保健の「教科書」に目を通しておく。
できれば、「学習指導要領」及び「解説」にも。
2. 講演の導入における「つかみ(まくら)」を工夫する。
3. 「視聴覚教材」や「実物」の持ち込みは有効。
4. 児童生徒との「交流・対話」を積極的に取り入れる。
5. リアルな「実話」や具体的な「例え」で、分かりやすく、
強調したい内容では、「繰り返す」、「間を取る」、
「声を小さくする」等も効果的。
7. 「専門性」を生かしつつも、「裏話は慎重に」。
8. 講師となる喜び、メリットを強く意識し、「伝える心」に
スイッチを入れる。

34

(3) がん教育で配慮が必要な事項

がん教育の実施に当たっては、(授業の実施前までに)以下のよう
な事例に該当する児童生徒が把握できる場合はもとより、把握でき
ない場合でも授業を展開する上で配慮が求められる。

- ・小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒が
いる場合。
- ・家族にがん患者がいる児童生徒等や、家族をがんで亡くした児童
生徒等がいる場合。
- ・生活習慣が主な原因とならないがんもあり、特に、これらのがん
患者が身近にいる場合。
- ・がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒等や、
家族に該当患者がいたり家族を亡くしたりした児童生徒がいる
場合。

(文部科学省, 2021 一部改訂)

35

がん教育を推進する先生方への 私からのアイナル・メッセージ

1. 教育課程の枠組みと各特質を踏まえて、
学校全体で計画的に実践するように！
2. 教師自身の問題意識と指導意欲を高め、
家庭や地域と共通理解を図り、連携した
取組を着実に進めるように！
3. すべての子供たちが真剣に考える時間と
材料と仲間を保障する、あるべき「授業」
の探究・開発を、皆で力を合わせて目指
しましょう！

(野津有司, 2021)

36

令和3年度がん教育指導者研修会アンケート結果

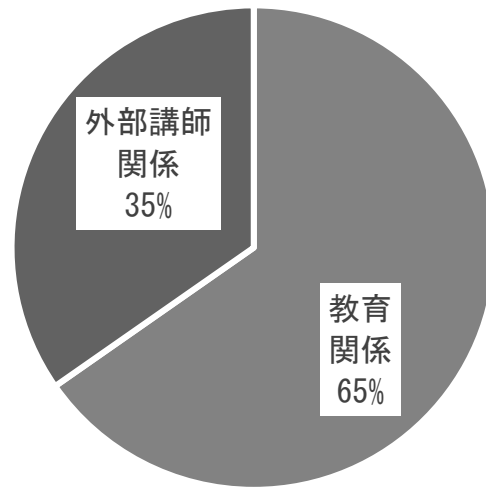
※参加者188名のうち、参加者アンケートに回答した147名。

<参加者について>

◎参加者内訳（全体）

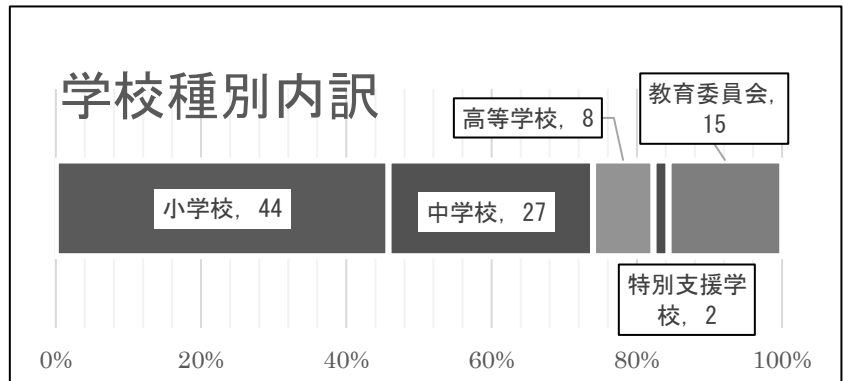
分類	人数（人）
教育関係	96
外部講師関係	51

参加者内訳（全体）



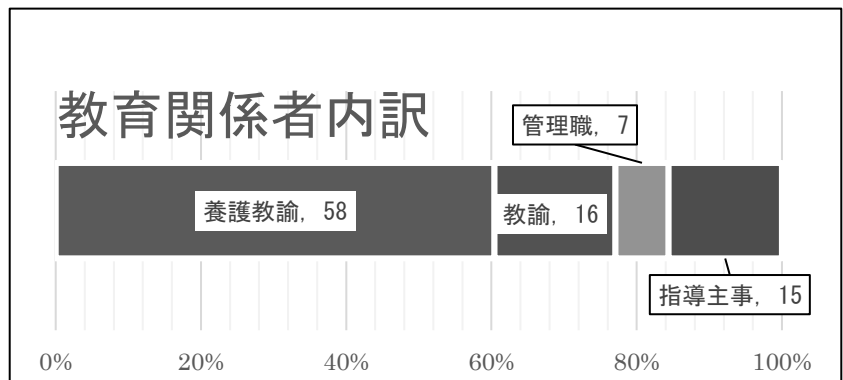
○学校種別内訳

分類	人数（人）
小学校	44
中学校	27
高等学校	8
特別支援学校	2
教育委員会	15



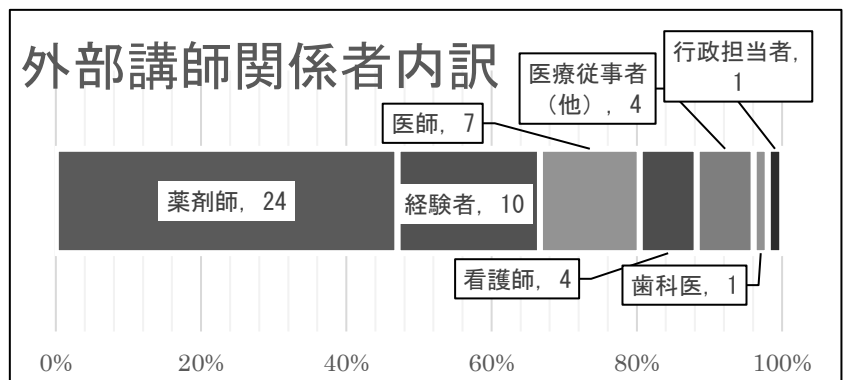
○教育関係者内訳

分類	人数（人）
養護教諭	58
教諭	16
管理職	7
指導主事	15



○外部講師関係者内訳

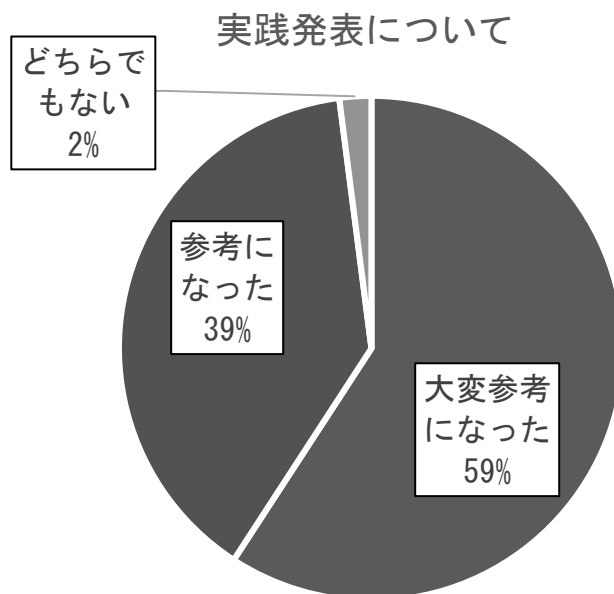
分類	人数（人）
薬剤師	24
経験者	10
医師	7
看護師	4
医療従事者（他）	4
歯科医	1
行政担当者	1



<実践発表について>

◎内訳

分類	人数(人)
大変参考になった	87
参考になった	57
どちらでもない	3
参考にならなかった	0



○教育関係者 ※抜粋

- ・小・中・高校で系統的ながん教育を行うことにより、生涯に渡る健康やQOLの向上につながることを改めて実感しました【養護教諭】
- ・情報を伝えるだけでなく、子どもたちが主体的に考え、取り組むことができる授業展開によって、子どもたちの中に残るような工夫をされていてとてもよかった。【養護教諭】
- ・小学校では、体育科の「保健領域」と総合的な学習の時間と学級活動を組み合わせた授業構成でとても参考になりました。【管理職】
- ・特にがん教育を実践する上での外部講師との連携の留意点や、他の教科・領域と関連付けた教科横断的な実施の有効性を学ぶことができ、今後の実践の中でぜひ生かしていきたいと感じた。【教諭】
- ・校種ごとに児童生徒へのアプローチの方法が異なり、年齢に応じた習熟につなげる参考になりました。授業展開の工夫は悩んでいた部分なので、実践発表からたくさんヒントをいただきました。【養護教諭】
- ・中学校の保健体育の実践発表の生徒の文字をスケールで表す方法や授業後の七木田先生のご指導を受けての授業改善まで明示されていて素晴らしいと思いました。【養護教諭】
- ・今、自分ができることや家族や大切な人に伝えたい思いを考えることでかんに対する学びがより深まっていると思った。【養護教諭】
- ・校内研究体制の取組や指導計画、授業実践が素晴らしく取り入れて行きたいと思いました。【養護教諭】
- ・地域のがん検診の資料を活用し、自分事として考えさせる工夫を実践してみたいと思った。【養護教諭】
- ・がん教育のみならず、授業づくりの視点について大変参考になりました【管理職】
- ・高校の、「大切な人が、がん予防に取り組むようなメッセージ」が強く印象に残りました。【教諭】
- ・発達段階に応じて言葉を選んだり、内容にも配慮したりしていることが感じられた。【教諭】
- ・実践された内容を写真や動画でもお示しいただいたので、イメージがしやすかったです。【養護教諭】
- ・学習の内容をアウトプットすることによって、結果的に学習者の理解が深まることを改めて感じました。発表の「生徒同士が異なる課題について学習したうえ、教え合う」方法や、「大切な人に向けたメッセージを書く」という演習の形で実施する方法について大変効果的だと実感しました。【指導主事】
- ・「がん」について罹患率が高いことが知識として備わってはいても、子どもたちにとって「将来的なイメージ」にとどまり、現在においてはともすれば他人事になってしまうことが懸念されるように思います。自分自身

の健康管理に置き換えてとらえたり、考えを深めたりするためには、教師の適切な問いかけや支援が必要だと考えました。【指導主事】

- ・中学校の発表の「3つの資料を結び付けて新たに生まれた疑問は何ですか」という問いは、とても良いと思いました。中学生になると先生が求めている解答を意識して答えてしまいがちですが、この問いは分かったことと分からなかったことが明確になる素晴らしい発問だと思います。【指導主事】

○外部講師関係者 ※抜粋

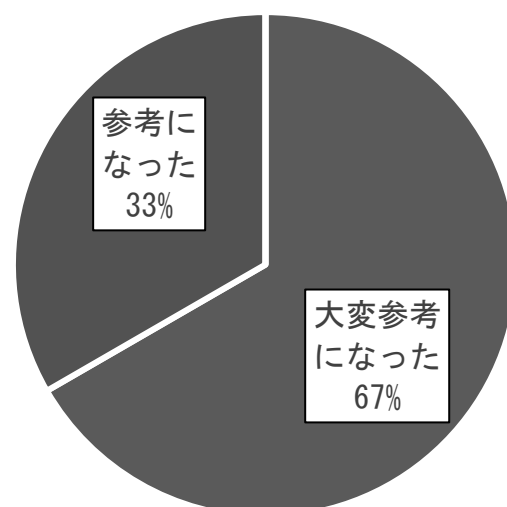
- ・各発達段階で、具体的にどのような教育が実践されているのかがわかり、参考になった。【経験者】
- ・「がん」に対する事前アンケート、イメージを把握し、がん教育授業後の児童生徒の認識が変わったことがよく解りました。【経験者】
- ・生徒の理解を深めるために様々な工夫を凝らしていることが勉強になった。【行政担当者】
- ・子供たちが主体的に学べるような授業になるよう工夫されていて、参考になりました。高校で、授業のあとに大切な人へのメッセージを書いてもらう部分など、とても興味深く聞かせていただきました。【看護師】
- ・児童、生徒たちが、健康と命の大切さを学ぶ中で、自ら考えて今の自分にできることを見つけていく事の重要性、主体的に学ぶ事の重要性を実感することが出来ました。【薬剤師】
- ・知識の伝達だけではなく、楽しく正確な知識の習得や生活上で対応能力を取得できるように、経験も談も話されています。子供達に意欲的に学習させていると感心しました。【薬剤師】
- ・がん教育の実情がわかり参考になった。くすり教育にも役立てたい。【薬剤師】
- ・実際の学習風景等を写真で掲載されていたため学習風景がわかりやすかったこと。実践をした反省点も発表に盛り込まれていた内容が参考になった【薬剤師】

<講演について>

◎内訳

分類	人数(人)
大変参考になった	96
参考になった	48
どちらでもない	0
参考にならなかった	0

講義について



○教育関係者 ※抜粋

- ・がん教育の現状や授業実践する際の指導のポイントが明確になりました。また、後半の講師としての心得は授業者にも通じるものがあり、大変勉強になりました。【養護教諭】

- ・各校種で指導すべき内容を確認したうえで、授業の構成を考え、外部講師に講演を依頼することが大切だと感じた。【養護教諭】
- ・実際にブレインストーミングや「がんを防ぐための新12か条」を考えることで、児童・生徒の気持ちがよくわかりました。すぐに実践できそうな導入やまとめの工夫なども、とても参考になりました。【管理職】
- ・授業を行う上では1時間で完結する指導とするのではなく、子ども達が継続的な視点で健康について考え、実践できるような指導の方向性を大切にすることがポイントであることを学ぶことができた。【教諭】
- ・がん教育のみならず、保健教育の在り方をお話ししてくださったので、自校の取り組みについて、継続的、発展的な保健教育になるよう、見直していきたいと思いました。【養護教諭】
- ・がんについて、これからも関心を持ち続ける。正しい情報を自ら得て、実践行動していく。そういうメッセージを子供たちに送るのだというお話が印象に残りました【養護教諭】
- ・「健康は継続性」…限られた時間の中で子供たちが効果的に学習できるよう教材化する力を高めていきたいです。【養護教諭】
- ・がん教育の授業を組み立てる上で、まず「導入」で興味・関心を持たせるための工夫や、「まとめ」で今後の生活につながっていくような工夫が重要であることを学びました。そして、主体的・対話的で、深い学びに結びつけるためには、ネタとなる教材を精選し、一人一人の考えを引き出せるような手法(ブレインストーミング・クイズ等)を取り入れることの重要性について、理解することができました。【養護教諭】
- ・外部講師との連携を密に取るために打ち合わせが大切だと思いました。授業だけではなく健康教育として継続的に進めていきたいです。【養護教諭】
- ・がんという病気の知識だけではなく、健康を保つためにできることや、身近にいるがん患者をどう支えるかなど、指導する内容も多岐に渡ることが分かった。【教諭】
- ・指導案を模倣して授業をつくるのではなく、指導要領をよくよみといて、子どもの実態に合わせた教育を進めていくことの重要性が改めて学びました。【養護教諭】
- ・がん教育が指導要領に位置付く背景、求められる授業改善の実践例を校種ごとの系統性という視点や、授業で完結するのではなく、人生の中で継続的に向き合っていくための問題提起や意識変革となるような視点での授業づくりが求められることを、確認することができました。【指導主事】
- ・身近な人ががんで亡くなっている経験をしている児童もいると思うので、授業のやり方や伝え方はよくよく考えていかなければと思いました。正しくがんを恐れることができる素地を小学校でも作っていききたいと思いました。【教諭】
- ・教育現場には「〇〇教育」が溢れていること、がん教育が教育全体の中でどの程度のウエイトにあるかをご説明いただき、よく理解することができた。【管理職】
- ・授業のまとめの工夫では、『継続的、応用的、発展的なメッセージとなるようにまとめることが1つの工夫として望まれる』ということが印象に残った。【教諭】
- ・授業をする側も「がん教育」ということで構えずに、子どもたちの視点で授業を組み立て実践し、改善を繰り返すことが重要だとわかりました。ブレインストーミングも勉強になりました。【養護教諭】

○外部講師関係者 ※抜粋

- ・「授業後も、継続的、応用的、発展的なメッセージになるようまとめることが望まれる。」というお話や、「野津先生による外部講師のための8か条」を提示いただき、今後に生かすことができると思った。【経験者】
- ・ブレインストーミング、なるほどと思いました！授業後の広がり、継続、応用が発展的なメッセージになるように工夫するという野津先生のお言葉に納得しました。【経験者】

- ・毎年「がん教育」の授業をやらせていただいているが、年々子ども達の知識が豊富になってきていたり、子ども達の環境に「がん」が余りにも身近になってきていたりしていたので、今までのやり方で良いのかどうか迷っていた。講演を聞かせていただいて、変化させても良いんだという自信がついた。【経験者】
- ・「何を学ぶか」とどまらず、「どのように学ぶか」「どうしたらできるようになるか」アクティブ・ラーニング、深い学びへの道筋、理解を文字通り 深めることができた。【医師】
- ・自分が知っている知識を押し付けるだけの講義にならないように気を付けること、発展性を持たせた内容にすることなど、非常に参考になりました。【看護師】
- ・知識の伝達では無く、一生涯の正確な知識の習得、判断、対応能力が取得する為の学校教育をすると認識を新たにしました。常に変化する情勢がある事、指導のテクニックも大事ですね！【薬剤師】
- ・外部講師の長所・短所など参考になりました。ブレインストーミング、ドミノクイズ、ビンゴマスターカードなど、楽しく実践できたら、素晴らしいと思いました。【薬剤師】
- ・学校という平等な学びの場で全ての子供達が幼い頃から病識や予防法を学べる事は、子供達の健やかな発育と心の成長、そして今後の罹患率低下に繋がるのではないかと期待します。【薬剤師】

<感想>

○教育関係者 ※抜粋

- ・対面形式の研修会も有意義だと思いますが、オンライン形式になったことで、会場までの移動時間が削減でき、効率よく受講できたので、とてもよかったです。【養護教諭】
- ・大切さを実感するとともに、大事ながん教育の時間を無駄にしない授業を周りの教職員と一緒に考え、子どもたちが家に帰った後にまた思い返してくれるような授業を行いたいと思いました。【養護教諭】
- ・「がん」に対する認識が変わると同時に、取り組んでみようという気持ちが高まりました。【教諭】
- ・講師の「がんについて、これからも関心を持ち続け、自ら正しい情報をとらえて、考え判断し、実践・行動していくこと、それが今後に向けて最も大事なことです。」というお言葉が心に残っています。「子どもたちが何年後も何十年後も心身ともに健康でたくましく、心豊かに生き生きと生きていけるように、養護教諭として、今、子どもたちのために何ができるか。」深く考えるとともに、責任の重さを痛感しました。子どもたちの健康のため、そして子どもたちの輝く未来のため、子どもひとりひとりに寄り添いながら日々の教育活動を大切にしていきたいと思います。いつも笑顔を忘れずにがんばりたいです。【養護教諭】
- ・がん教育について知識の少ない教職員も多いと思うので、自分から発信していきたいです。【養護教諭】
- ・養護教諭だけではなく、多くの教員ががん教育について重要性を理解し、適切な時期に必要な内容を指導していかななくてはと強く感じました。【養護教諭】
- ・授業をすることも考えて、野津先生のような方から授業のつくり方(導入・展開・まとめ・グループワークの仕方等)をもっと知りたいと思いました。【養護教諭】
- ・参集が一番良い方法だと思っていたが、zoom での開催は主催者にも参加者にもメリットがあると思った。今後は研修会の内容によって両方を使い分けるとより効率の良い運営ができると思う。【指導主事】
- ・オンラインで開催していただいたことによって、講師の先生のお顔や声をかえって間近に感じることもできたり、資料の細かな部分にまで注目することができたり、メリットが多かったように思います。【指導主事】
- ・がん教育への取り組みについては、まだまだ不安ですが、教職員の共通理解を図り、家庭環境への配慮も忘れず、子供たちに何を教えたいかをよく考えていきたいと思います。外部講師への協力を得られることも大変心強いです。【養護教諭】

○外部講師関係者 ※抜粋

- ・さらにZOOMでの研修がより良いものになるように、いつでもコメントを入れられるチャット機能が活かせたらと思いました。【経験者】
- ・関係職員のみならず、がん経験者にも広く門戸を広げていただき、ありがとうございます。【経験者】
- ・単なる知識の伝達、無意味な繰り返しの起こらないよう気を付けて今後の外部講師としての務めを果たしたい。授業前の配慮事項について 児童・ご家族の受診・治療状況を担当の先生にお伺いしているのですが、個人情報との兼ね合いで ご苦労されているようです。よい確認の方法について 共有できる情報があれば 各学校で周知できるとよいと感じています。【医師】
- ・外部講師として、がん教育に参加していきたいという気持ちはありますが、一方で、自分に何が伝えられるのか、心配な部分もあります。今回のような研修や、がん教育見学会への参加を積極的に行い、他の外部講師の先生方がどのように授業を展開しているのか参考にしながら、いつかは自分もがん教育に携わってみたいと思っています。【看護師】
- ・画面、マイク等、とても聞きやすかったです。Webでの研修会でしたので参加できました。【薬剤師】
- ・社会保障費が莫大となっている今、がん予防に対して急務になっています。これからの未来を担う子ども達へのガン教育はとても大切なことだと思います。【看護師】
- ・小学校から始まり社会に出るまでにがんについてこれだけ勉強していれば心強いし、互いに助け合える関係が築きやすいと思われました。【薬剤師】
- ・がんは死因1位ですが、他の死因とは異なって、急死することは少なく(良くも悪くも)一定の時間が与えられ、ある程度の原因もあります。昔とはことなり、治療しながら生活続けることも出来るようになったため、命について、生き方や生活習慣についてと色々なことを学んだり、時に自分を見つめなおしたりするテーマに「がん」はなると思います。この取り組みが成功することを微力ながら祈っております。【薬剤師】
- ・健康教育については我々薬剤師が関わる必要性を感じています。薬剤師は病気にならないためにどのようにすればよいかを提案し今後も考えたい【薬剤師】

令和3年度埼玉県「がん教育」授業研究会(小学校)実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和3年11月30日(火)

4 会 場 草加市立八幡小学校
〒340-0006 草加市八幡町65番地

5 参加対象者 小学校教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)、特別支援学校教職員及び指導主事等 ※会場校設置市(草加市)の中学校教職員

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|---------|
| (1) 受付 | 12時50分～ | (体育館) |
| (2) 全体会 | 13時15分～13時35分 | (体育館) |
| (3) 公開授業 | 13時45分～14時30分 | (体育館) |
| (4) 研究協議 | 14時50分～16時20分 | (体育館) |

7 公開授業 ※学級担任と外部講師(がん専門医)によるTT

学年	授業者	題 材
6年	佐藤 優樹 教諭(T1)	特別活動「健康な生活と命の大切さ」 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
	儀賀 理暁 教授(T2) (埼玉医科大学総合医療センター)	

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	松中 直司
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	新井 克仁
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	咲間 悟
埼玉県教育局南部教育事務所	指 導 主 事	熊田 大樹
草加市教育委員会指導課	課 長	山村 一晃
草加市教育委員会指導課	指 導 主 事	萩野 貴之

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
越谷市立大沢小学校	校 長	長井 圭子
深谷市立深谷西小学校	教 諭	栗田 顕
所沢市立安松小学校	養 護 教 諭	小林 牧葉

第6学年1組 学級活動（総合的な学習の時間）指導案

令和3年11月30日（火）第5校時

場 所 体 育 館

児 童 数 31名

指 導 者 佐 藤 優 樹

1 題材名 「健康な生活と命の大切さ」（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 児童の実態と題材設定の理由

（1）児童の実態

児童はこれまでに、体育科保健領域の「病気の予防」において、病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起きること、また、その予防のために、適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高める必要性について学習してきた。そこで、「がん」については、日本人の死因の第1位であるということについては学習しているが、がんの主な要因や予防法など、詳しい内容には触れていない。

事前に実施したアンケートの結果から、健康な生活を送るためには、がんの学習が重要であると考えている児童が多いことがわかる。また、「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。」という問いに99%の児童が「正しい」と回答しているが、「早期発見をすれば、がんは治りやすい。」という問いに87%の児童が「正しい」と回答していることから、がんは死に至る怖い病気である一方、治る病気でもあると認識している児童が多いことがわかる。しかし、「がんになっても生活の質を高めることができる。」という問いに「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した児童が37%と低く、がんになった場合、悲観的（ネガティブ）なイメージを持つ児童が多いと考えられる。

本学級の児童は、道徳科の学習（生命尊重）を通して、人間の命の重さや生きることの尊さ、自分自身や身の回りの人がよりよく生きるためにはどうすればよいかについて、一人一人が考えたり、話し合ったりする活動を行った。本題材においても単元を通して、一人一人が「がん」を身近な問題として捉えるとともに、健康と命の大切さについて深く考え、主体的な行動につなげていくことが期待できる。

事前アンケートの結果

（1）がんと聞いて、どんなことをイメージしますか。（記述式）

- ・がんになってしまったら、亡くなる可能性が高い。
- ・治らない病気で、最悪死んでしまう。
- ・たばこや健康に悪い生活を送ることでがんにかかってしまう。
- ・遺伝でがんになる可能性がある。
- ・髪の毛が抜けて、かわいそう。

(2) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	思わない
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	93%	6%	1%	0%
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	91%	8%	1%	0%

(3) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質問	正しい	誤り
a	がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	93%	7%
b	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	99%	1%
c	がんは日本人の死因の第2位である。	42%	58%
d	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	94%	6%
e	早期発見すれば、がんは治りやすい。	87%	13%
f	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	12%	88%
g	がんの治療法には手術治療しかない。	31%	69%
h	がんの痛みは我慢するしかない。	18%	82%

(4) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	思わない
a	自分はがんにならないと思う。	9%	26%	25%	40%
b	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	86%	9%	2%	3%
c	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	71%	23%	4%	2%
d	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	73%	22%	5%	0%
e	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	33%	20%	28%	19%
f	がんになっても生活の質を高めることができる。	23%	14%	40%	23%
g	がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい。	76%	10%	3%	1%
h	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	56%	29%	9%	6%
i	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	95%	5%	0%	0%
j	長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	87%	11%	2%	0%

(2) 題材設定の理由

1981年から現在まで日本人の死因の第1位はがんであり、2019年のデータによると男性の26.7%（4人に1人）、女性17.8%（6人に1人）ががんで死亡している。また、一生のうちがんと診断される確率（2018年データ）は、男性65.0%、女性50.2%に達しており、日本人の2人に1人はがんにかかるといわれている。こうしたことから、がんは国民の生命と健康にとって重大な問題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。

わが国では、がん対策基本法のもと、がん対策推進基本計画が策定されている。第3期計画（平成29年度～令和4年度）では、「健康については、子どもの頃から教育を受けることが重要であり、子どもが健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切である」ことが示されている。また、「これらをより一層効果的なものとするため、医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用し、子どもに、がんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることが重要である」ことも示されている。

このようなことから、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、がんを正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようになると考えた。そして、他の様々な病気の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る上でも意義のある内容であると捉え、本題材を設定した。

(3) 本題材の指導

本題材では、児童に「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について教科横断的な視点から、体育科保健領域、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動を通してこれからの社会を生きていくために必要な資質・能力を身に付けさせたいと考えている。がんに対する科学的根拠に基づいた理解については、学習指導要領に則り、中学校及び高等学校で学習することを踏まえ、小学校段階では、がんに対する基礎的な知識（原因、予防、早期発見、検診等）についての理解に絞って学習し、健康と命の大切さについて主体的に考える児童の育成を目指す。また、家族にがん患者がいる児童や身近な人をがんで亡くしている児童がいることから、養護教諭や学年の先生方と連携し、児童に対する配慮を慎重に行っていく。

また、学級担任とがん専門医（外部講師）によるティームティーチングによる指導方法の工夫により、今回取り組むがん教育を一層効果的なものとしていく。外部講師と連携した授業の実施に当たっては、事前の打ち合わせを十分に行うことにより、学校のニーズと外部講師の思いや考えについての共通理解を図ることとする。

事後指導では、意思決定したことの実践と振り返りを行う。児童が目標実現に向けて取り組む姿を認め、励まし、成果をあげることができるように指導する。

3 評価規準

(体育科保健領域)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>②病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体について、発生源をなくすこと、体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>③生活行動が主な要因となって起こる病気を予防するには、適切な運動や食事、口腔の衛生を保つなど、健康によい生活習慣を身につける必要があることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>	<p>①病気の原因について、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などの要因に分類して考え、説明している。</p> <p>②感染症の予防のために考えたり選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由を挙げて説明している。</p> <p>③生活行動が主な要因となって起こる病気の原因となる生活習慣について考え、予防する方法について理由を挙げて説明している。</p>	<p>①病気の起こり方について関心をもち、課題の解決に向けた学習活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②病原体が主な要因となって起こる病気の予防について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に、進んで取り組もうとしている。</p> <p>③生活行動が主な要因となって起こる病気に関心をもち、学習したことをもとに自分の生活を振り返るなど、進んで学習活動に取り組もうとしている。</p>

(道徳科)

評価の視点	
<p>【物事を多面的・多角的に考えている様子】 命があることの喜びや可能性、命は多くの人の支えの中で守られているなどの意義について、様々な観点から考えている。</p>	<p>【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】 自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考え、自分のこれからの生き方について考えを深めている。</p>

(総合的な学習の時間)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①がんの現状、原因、早期発見の重要性、予防方法などについてがんの基本的なことを理解している。</p> <p>②がんについて書かれた本などの資料を調べることを通して収集した情報を取捨選択し、文章や図表でまとめている。</p>	<p>①がんに関する課題を解決するために必要な情報を取捨選択しながら収集している。</p> <p>②がんについて調べた情報を基に、友達の考えと比較したり、文章や図表で整理したり分析したりしている。</p> <p>③がんについて調べたり、まとめたことを、相手に伝わるように工夫して表現している。</p>	<p>①自分や家族の健康の保持増進のために進んでがんについて調べ、自分にできることを考えようとしている。</p> <p>②自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、友達と協力して学び合おうとしている。</p>

(学級活動)

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

4 事前の指導

日付	主な活動	○指導上の留意点	☆評価の観点
7月下旬	・アンケート調査	○結果を集計・分析し、児童の実態を把握する。	
9 / 17	・道徳科「命を見つめて」	○家族や身近な人が亡くなった児童に対して配慮を行う。	
9 / 5 ～ 11 / 26	・体育科（保健領域） 1 / 4～4 / 4時間 ・総合的な学習の時間 1 / 5～5 / 5時間 ・病気の起こり方や予防の仕方、生活行動が主な要因となって起こる病気について学習する。 ・がんについて調べ、まとめる。	○がんが死亡原因の1位であることを押さえる。 ○がんの早期発見の重要性や、治る場合もあることを押さえる。	☆がんについて正しく知ること、病気を予防するにはよい生活習慣を身に付けることが大切だと理解している。 【知識・技能】 ☆自分や家族の健康の保持増進のために進んでがんについて調べ、自分にできることを考えようとしている。 【思考・判断・表現】

5 単元の指導と評価の計画

(全12時間 保健4時間+道徳1時間+総合的な学習の時間5時間+学級活動1時間)

本時は○印

(保健領域)

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
1 病 気 の	I ねらい ○病気は、病原体、体の抵抗力、生活のしかた、環境などが関わり合って起こることを理解することができる。 II 学習活動 ①かぜをひいた時、体にどんなことが起こるか、経験を振り返る。				

習慣病の予防 ①	①自分の生活習慣を振り返り、課題を見つける。 ②死亡原因を示すグラフから、死因の上位を生活習慣に起因する病気が占めていることを読み取る。 ③心臓病や脳卒中は、どのようにして起こるのかを調べる。 ④心臓病や脳卒中を予防するための健康によい生活習慣について、食事、運動などのそれぞれの観点でまとめる。 ⑤健康によい生活習慣について、自分がこれから実行していきたいことについて発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導すべき内容 ・心臓病や脳卒中を予防するためには、食事、運動などに気を配り、健康な生活習慣を身に付ける必要があること ・日本人の死因の1位が「がん」であることや生活習慣が原因となって「がん」にかかることがあること </div>	③		③	ワークシート 発表
生活習慣病の予防 ②	I ねらい ○むし歯や歯周病を予防するためには、口の中を清潔にしておくことなど望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを理解することができる。 II 学習活動 ①むし歯になったときの経験について発表する。 ②むし歯はどのようにして起こるのかを調べる。 ③歯周病はどのようにして起こるのかを調べる。 ④むし歯や歯周病を予防するためにはどうしたらよいか、生活習慣の観点からまとめ、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導すべき内容 ・むし歯や歯周病を予防するには、口腔の衛生を保つなど口の中を清潔にしておくことが必要であること </div>		③		ワークシート 発表

(道徳科)

時	学習のねらい・活動	評価の視点
	I ねらい ○限りある生命だからこそ精いっぱい生きようとする態度を養う。 II 学習活動 ①生きるとは何かを考え、発表する。 ②「命を見つめて」を読み、病気やけがと闘っている人の様子から感じたことについて話し合う。	【物事を多面的・多角的に考えている様子】 命があることの喜びや可能性、命は多くの人の支えの中で守られているなどの意義について、様々な観点から考えている。 【道徳的に価値について理解を自分との関わりで深めている様子】 自分の生活を振り返り、自分に命があるこ

	<p>③主人公の生き方について感じたことや考えたことをまとめ、話し合いを通じて命について考える。</p> <p>④病を乗り越え精いっぱい生きる人たちの生き方について知る。</p> <p>⑤自分のこれからの生き方についてまとめる。</p>	<p>とのありがたさについて考え、自分のこれからの生き方について考えを深めている。</p> <p>ノート・発表</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

(総合的な学習の時間)

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
1 がん教育 課題の設定	<p>I ねらい</p> <p>○がんの現状、原因、早期発見の重要性、予防方法などについて、がんの基本的なことを理解することができる。</p> <p>○がんについて調べたいことを決め、学習計画を立てることができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①がんに関するアンケートの結果や児童の言葉から、がんがどのような病気だと認識しているのかを確認する。</p> <p>②映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」を視聴し、がんは治る場合もある病気だということを理解するとともに、予防や早期発見が重要であることを知る。</p> <p>③映像教材「がんと生きる」を視聴し、生きることや、生きていく上で大切なことについて考え、発表する。</p> <p>④グループごとにごんについて調べたいことを決めて、学習計画を立てる。</p> <p>※調べる項目例 ・日本のがんの現状 ・原因 ・予防法 ・検診(早期発見) ・がんになった人やその家族の思いについてなど</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは治る場合もある病気であるとともに、予防や早期発見が重要であること ・自分や大切な人ががんになったとき、自分にもできることがあること </div>	①		①	ワークシート 発表
2 3 がん教育	<p>I ねらい</p> <p>・ ○課題を解決するために、がんに関する必要な情報を選択しながら収集することができる。</p> <p>○自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、友達と協力して学び合うことができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①本や資料、インターネットなどを活用し、調べたいこと</p>	②	①		ワークシート

情報 の 収 集	(原因・予防・早期発見・検診・がんになった人やその家族の思いなど)について調べる。 ②調べていて疑問に思ったことをまとめ、外部講師に質問する項目を考える。				
	指導すべき内容 ・調べた情報の取捨選択(正しい情報の獲得)				
4 ・ 5 が ん 教 育	I ねらい ○がんについて調べたり、まとめたりしたことを、相手に伝わるように工夫して表現することができる。 II 学習活動 ①グループごとに情報を精査し、自分たちが伝えたいことを考える。 ②調べたことをスライドにまとめる。		② ③	②	観察 スライド ワークシート
整 理 ・ 分 析	指導すべき内容 ・分かりやすく伝えるためのまとめ方の工夫 ・自分や大切な人ががんになったとき、自分にもできることがあるということ				

(学級活動)

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
① 本 時	I ねらい ○がんについて理解し、健康と命の大切さについて考え、自分が取り組む行動目標を決めることができる。 II 学習活動 ①がんをとりまく状況やがんに対するアンケートの結果から、がんに対するイメージを確認する。 ②総合の学習でがんについて班ごとに調べたことを発表し合う。 ③外部講師の話を聞く。 ④健康な生活を送るための具体的な行動内容を、「行動決意シート」に書く。	○			発表 ワークシート
	指導すべき内容 ・自分自身や身近な人の健康、及び人との関りについて、生涯を通じて取り組んでいくことを考えることができる		○	○	発表 ワークシート

6 本時の学習と指導（1／1）

（1）ねらい

がんについて理解し、健康と命の大切さについて考え、自分が取り組む行動目標を決めることができるようにする。

（2）展開

時間	児童の学習内容・活動	○指導上の留意点 ◆評価【評価方法】 ★草加っ子の学びを支える授業の5か条との関連	資料等
導入 （つかむ） 3分	1 がんをとりまく状況やがんに対するアンケートの結果から、がんに対するイメージを確認する。 ・がんをとりまく状況 ・がんに対する児童のイメージ 2 本時のねらいを知る。 がんを知り、自分にできることは何だろう。	○アンケート結果を活用することで、がんをとりまく状況や課題がわかり、児童にとって自分自身の問題であることを意識できるようにする。 ★第1条「学習の目標（めあて）を明らかにする」	グラフ アンケート結果 ICT機器
展開 （さぐる・見つける） 35分	3 それぞれのグループで調べたことを発表する。 テーマ ・治療法 ・検診 ・予防法 ・がんになった人やその家族の思い など 4 外部講師の話を聞く。 話の項目 ○病気について ①健康・生活習慣 ②検診 ○人との関り ③がんを宣告された人の思い ④患者さんとの関りの中で大切にしていること	○発表を聞きながらメモをとり、がんについての理解を図る。 ◆発表を聞き、がんの基礎知識を理解している。【ワークシート方法】 ○外部講師の話に教師・児童が関り、三者の対話を通して理解を深める。 ○項目ごとにメモを取る時間を確保する。 ◆外部講師の話を聞き、がんという病気やその患者との関り方を理解している。【ワークシート方法】	タブレット ワークシート
終末 決める	5 健康な生活を送るための具体的な行動内容を、「行動決意シート」に書く。 児童の反応例 ・毎日外遊びをしたり、朝のウォーキングをしたりして、健康	★第2条「児童が自分で考える時間を設ける」 ○自分自身だけではなく、身近な人が健康な生活を送るために必要なことを意識できるようにする。 ★第4条「学んだことを活用する場を	ワークシート

7分	<p>な体作りをしていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もしも、身近な人ががんや他の病気になったら、自分が支える存在になる <p>6 「行動決意シート」を友達同士で伝え合う。</p> <p>7 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①児童の振り返り</p> <p>②外部講師からのメッセージ</p> <p>③教師からのメッセージ</p> </div>	<p>設ける」</p> <p>◆これまでに学習したことや、外部講師の話から、自他の健康のためにできることを決定している。【ワークシート】</p> <p>★第3条「児童が表現と交流する場を設ける」</p> <p>○数名が発表し、目標の修正や実践の参考にできるようにする。</p> <p>★第5条「学習のまとめと振り返りの時間を設ける」</p> <p>◆自他の健康と命の大切さについて主体的に考えている。【発言】</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 板書計画

がんを知り、自分にできることは何だろう。

<p>つかむ (現状把握)</p> <p>◎がんをとりまく状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の二人に一人ががんになる。 ・死亡原因が1位 <p>◎がんに対するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治らない病気で、最悪死亡する。 ・健康に悪い生活を送るとがんにかかってしまう。 	<p>さぐる・見つける (情報の共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療法 ・検診 ・予防法 ・家族の思い <p>◎外部講師の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病気について <ul style="list-style-type: none"> ①健康・生活習慣 ②検診 ○人との関り <ul style="list-style-type: none"> ③がんを宣告された人の思い ④患者さんとの関りの中で大切に 	<p>決める (自己決定)</p> <p>◎自分にできることを考えよう</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 20px; text-align: center; margin: 20px auto; width: 80%;"> <p>行動決意シート</p> </div>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 事後指導

主な活動	○指導上の留意点	☆評価の観点
<ul style="list-style-type: none"> ・「行動決意シート」の振り返りを行う。 ・友達同士で取り組みを確認し、励まし合うことで実践の継続を図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 ○自分だけではなく、身近な人の生活行動や意識が向上した児童の意見を取り上げる。 	<p>☆健康な生活を送るために自分で考えた具体的な実践方法について、進んで取り組んでいる。【思考・判断・表現】</p>

健康な生活と命の大切さ～自分と身近な人のために～



めあて がんを知り、自分にできることは何だろう。

◎各班が調べたこと（さぐる）⇒正しく知識・自分にできること

① _____	② _____
③ _____	④ _____
⑤ _____	⑥ _____
⑦ _____	⑧ _____

名前 _____

◎外部講師の方の話

<p>○病気について ①健康・生活習慣</p> <p>②校診</p>	<p>○人との関わりについて ③がんを宣告された人の思い</p> <p>④患者さんとの関りの中で大切にしていること</p>
----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------

◎振り返り



行動決意シート

名前 _____

「健康な生活と命の大切さ」～自分と身近な人のために～

今できる自分の行動



現在・将来の自分の健康
身近な人の命を守る

わたしが決めた行動（具体的に・実際にできる）

○病気について

○人との関わりについて

○行動を振り返ろう（実際に行動した・行動していることは？） 月 日

○お家の人から

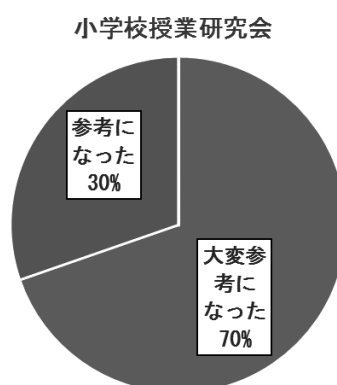
○先生から

令和3年度がん教育授業研究会（草加市立八幡小学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者33名	23	10	0	0

※参加者内訳：養護教諭18名、教諭11名、主幹教諭2名、指導主事1名、医師1名



○授業内容について

- ・教科等横断的な取組により、内容が充実しており、児童が自分事として捉えられており、ねらいに迫ることができていた。講義形式ではなく、インタビュー形式にすることで、内容や時間をコントロールできており、子供たちに寄り添った指導となっていた。【教諭】
- ・知的障害特別支援学校におけるがん教育の実践に向けて、「がん」そのものの理解は難しくても、ICTや外部講師の活用、生活習慣の重要性など参考にできるものが沢山あった。【教諭】
- ・小学生段階でここまで考えを膨らませ、学びを深めていることに驚いた。知的に障害のある子供への指導にも参考にある点がたくさんあった。【教諭】
- ・外部講師の活用が効果的であること。経験に基づく話、がんの捉え方が分かりやすく伝わっていた。「どんな自分でありたいか」を問いかけてくれ、今後の生き方につながると感じた。【指導主事】
- ・子供たちが終始メモを取りながら、集中して聞いている様子を見て、このような形での「がん教育」は素晴らしいと思いました。子供たちがまとめた発表資料も素晴らしく、参考になりました。【養護教諭】
- ・医師がT2に入ることに本当に驚いたが、患者に関わる意思のお話しには重みがあり、心に残った。児童が直接医師の話聞く機会は貴重であり、児童は幸せだと感じた。【養護教諭】
- ・外部講師との連携により、深く学ぶことに繋がっていた。聞くだけでなく一人ひとりで考える時間も確保され、自分自身の考えや気持ちを整理する時間にもなっていた。外部講師の話は全てがためになるもので、その話から「自分にもできること」が見つけられた児童もいたと思う。【養護教諭】
- ・行動決意シートの記述からもねらいに迫る授業だったことが分かった。【養護教諭】
- ・外部講師に丸投げせず、あくまでも授業者が進め、役割を明確にして、外部講師の専門性を生かしていたところが参考になった。【教諭】
- ・子供のうちにがんについて学ぶことが、がんの予防や検診のハードルを下げることに繋がると感じた。外部講師については、講演会（講師に1時間を任せる形）になりがちだが、子供に伝えたい思いや専門家にしか届けられないもの等、有効に活用できるように取り組みたい。【養護教諭】
- ・がん治療を行う医師として、今後の御家庭の対応の参考にしていきます。【医師】

【がん教育の授業を実施するにあたっての課題】

- ・TTによる指導方法の工夫は、とても効果的(役割が明確で、適切に対応できていた)であったと思うが、教師の事前準備、外部講師との連携など、誰でもできるかという点が多少なり課題と感じました。【教諭】
- ・がん教育では、知識重視の内容になってしまいがちで、「怖い」というネガティブなものになってしまいがちだが、今回の実践のように自分にできることという考えに基づいて生かしていくことが有効。【教諭】
- ・学校医や保護者の看護師などとの連携も考えていきたい。【教諭】
- ・家庭生活において、子供が主導権を握ることは難しいので、「学校の学び」→「家庭で、子どもから保護者へ伝える」→「保護者が気付き生活習慣の改善や検診につながる」という流れがよいと思います。【教諭】
- ・どのような子供たちを育てていきたいか明確にし、がんをどう捉えさせ、どう生き方に繋げていくかなど、知識習得だけでなく、子供たちが考え、活用していくような計画を立て、実践していきたい。【指導主事】
- ・時間確保。外部講師との調整、費用など。配慮すべき児童への対応。【養護教諭】
- ・中学校の教職員の中で「がん教育＝保健体育科」となっているイメージなので、教科横断的な「がん教育」を進めるに当たって、まずは教職員の意識改革が必要だと感じました。【養護教諭】
- ・配慮事項について、児童本人については把握できるが、家族や身近な人の把握は難しく、話し方や言葉選びは特に慎重に行う必要がある。その他、「病気になる＝本人の責任」ではないことへの配慮が必要で、子供の考えがそうならないよう注意が必要である。【教諭】
- ・教科横断的な視点でカリキュラムを組む必要性は感じるが、どう組むのか検討をしなくてはならない。外部講師を呼ぶことも計画的に行う必要性を感じる。がんだけでなく、他の病気にも触れさせることで、自他の健康や生き方を考える手立てとなるので、体育を中心に今後、検討したいと思う。【主幹教諭】
- ・がん教育に学校全体で12時間を費やし、様々な場面を生かして「命の教育」として取り組んでいて素晴らしいと感じた。市全体で統一して取り組めたら、より充実できると思う。【養護教諭】

令和3年度埼玉県「がん教育」授業研究会(中学校)実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和3年10月26日(火)

4 会 場 加須市立加須平成中学校
加須市大字南大桑1860番地

5 参加対象者 がん教育推進連絡協議会委員、加須市教育委員会指導主事、埼玉県教育委員会指導主事、会場校の教職員

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|-----------------|
| (1) 受付 | 13時15分～ | (体育アリーナ玄関) |
| (2) 開会行事 | 13時30分～13時45分 | (ミーティングルーム) |
| (3) 公開授業 | 14時00分～14時50分 | (国語A(2-1) 教室) |
| (4) 研究協議 | 15時15分～16時15分 | (PC室) |

7 公開授業

学年	授業者	単元名
2年	澁谷 裕貴 教諭	保健体育(保健分野) 「(1) 健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	咲間 悟
埼玉県教育局東部教育事務所	指 導 主 事	木下 隆弘
加須市教育委員会学校教育課	指 導 主 事	高橋 一也
埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁

保健体育科（保健分野）学習指導案

令和3年10月27日（火）第5校時 国語A教室
第2学年1組 男子15名 女子14名
指導者 教諭 澁谷 裕貴

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防

2 単元について

「生活習慣病などの予防」（本単元）では、生活習慣病などは、生活習慣の乱れが主な要因となって起こること、調和のとれた生活を実践することによって予防できることについて理解できるようにすることとしている。また、その中でがんについても取り扱うことになっており、がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には生活習慣をはじめ、様々なものがあること、他の生活習慣病と同様に、適切な生活習慣を身につけることが有効であることを理解できるようにするとともに、検診による早期発見など疾病の回復についても触れるよう配慮することとしている。

今年度から中学校で全面実施となった新学習指導要領では、「がん教育」に関連する内容が明確に位置付けられた。このことは、1981年（昭和56年）以来40年間、がんが日本人の死因の第1位であること、平成28年に「がん対策基本法」が改正され、がん教育に関する条文が新たに盛り込まれたこと、それらを受けて、文部科学省において、「がん教育のあり方に関する検討会」でがん教育のあり方が整理されたことなど、国民の二人に一人がかかるとされるがんは、日本において重要な健康課題となっていることが背景にある。

本単元では、健康の成り立ち及び疾病の発生に大きく関係する主体と環境の要因、さらに運動、食生活、休養及び睡眠等、生活習慣が健康に深く関わっていることなど、第1学年で学習してきたことを踏まえて、生活習慣病などの予防について学んでいく。生活習慣病としては、心臓病、脳血管疾患、歯周病などを扱い、それらについての理解を深めるとともに、その予防についても理解し、現在及び将来の生活における健康の保持増進に資することを目標としている。特に、「がんの予防」では、がんが身近な疾病であるということに気付かせ、生徒が自分事として学習に取り組む中で、がんに関する正しい知識について理解を深め、さらに正しい知識を身につけた上で適切な対処ができるよう、発生の仕組みなどの疾病概念、要因と予防、検診による早期発見について扱う。

3 生徒の実態

本学級は、明るく素直な生徒が多く、男女間の関係も良好で、全体的に協調性もあり和やかな雰囲気である。また、一人一台端末の活用が進み、自分の意見や考えを仲間に伝えやすい環境が整ったことで、仲間との意見交換や、共同作業においても積極性が見られるようになった。しかし、基礎学力に個人差があり、知識の定着やその活用についても差が見られることから配慮が必要である。

事前アンケートの結果から見られた、がんに対する生徒の実態は以下のとおりである。がん教育の重要性については、ほぼ100%の生徒が認識をしており、種類2のアンケート結果からも、基礎的な知識は理解している。しかし、種類2-e-オ「身体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくて良い」や

種類3-d-オ「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の結果は他項目と比べ低く、また、種類3-a-ア「自分はがんにならないと思う」も、肯定的な回答をした生徒がいることから、正しい理解が不十分で、自分とは無関係であると考えていることがわかった。

種	問	質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
1	a	がんの学習は、健康な生活を送るために必要だ	26	2	0	0			
	b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ	25	3	0	0			
種	問	質問			正しい	誤り			
2	a	ア	がんは、誰もがかかる可能性のある病気である。			27	1		
	b	イ	がんは、進行すると今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。			28	0		
	c	ウ	がんは、日本人の死因の第2位である			24	4		
	d	エ	早期発見すれば、がんは治りやすい			22	6		
	e	オ	身体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくて良い			20	8		
種	問	質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
3	a	ア	自分はがんにならないと思う			4	6	3	15
	c	エ	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど、健康な体づくりに取り組もうと思う			23	4	1	0
	d	オ	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う			22	5	1	0
	g	ケ	がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい			28	0	0	0
	h	コ	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う			26	2	0	0
	i	コ	家族や身近な人が健康であってほしいと思う			27	1	0	0
	j	コ	長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う			26	2	0	0

※28名実施。

※アンケートの英小文字は区分、カタカナは質問順を表す。当初用意されたアンケートから、授業内容に即したものに変更したため、項目が削除されているものがある。

4 教師の指導観

がんは身近な疾病であるにもかかわらず、生徒が自らの問題として捉えられておらず、また、その課題意識についても不十分である生徒の多い実態が明らかになった。しかし、がんを含む生活習慣病は、自らの生活との関わりが深い問題であり、思春期・成長期であるこの時期に、適切な生活習慣を身につけることが、その予防に有効であることから、自らの生活を振り返り、適切な生活習慣について、生徒同士で交流をしながら、具体的に考え、実践につなげていくよう指導を展開する。

また、本校では、全校を挙げて歯科保健に力を入れている。校長の掲げるグランドデザインや日課にも「歯みがき指導」を位置づけ、その充実を図っており、昨年度は、埼玉県学校歯科保健コンクールにおいて最優秀校、全日本学校歯科保健優良校表彰において、優秀校・文部科学大臣表彰を受賞した。この取組に本単元を関連づけ、日常的な生活習慣の確立に対する意識と資質の向上を図る。

5 単元の目標

- (1) 健康な生活と生活習慣病などの予防について、理解することができるようにする。 【知識】
- (2) 健康な生活と生活習慣病などの予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 健康な生活と生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ、様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>	<p>①生活習慣病などの予防について、関連する事象や情報を個人生活に関連付けて、自他の課題を発見している。</p> <p>②生活習慣病及びがんの予防に関する課題について、適切な解決方法を選択するとともに、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>①生活習慣病及びがんとその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

(2) 指導計画と評価計画（4時間扱い＋1時間（学級活動））本時は○印

時	学習のねらい・活動	知・技	思・判・表	主体	評価方法
1 生活習慣病の起こり方	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることについて、理解できるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 望ましい生活習慣について、既習事項（第1学年「生活習慣と健康」）を復習する。 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であること、運動や食事、休養及び睡眠などについて不適切な生活行動を若い年代から続けると、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、教師の説明を聞く 自らの生活を振り返り、将来の自分の健康に悪影響を及ぼすことが考えられる生活習慣を挙げ、生徒間で共有し、発表する。 	①			<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。【知識・技能①】(ワークシート)
2 生活習慣病の予防	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防について、関連する事象や情報を個人生活に関連付けたりして、自他の課題を発見できるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時で出てきた、改善すべき生活習慣について、確認し、分類する。 1についての具体的な改善策についてタブレット端末を活用し、調べ学習を行う。 2で調べたことをもとに、グループ内で教え合い学習を行う。 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。 		①		<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防について、関連する事象や情報を個人生活に関連付けて、自他の課題を発見している。【思考・判断・表現①】(ワークシート・観察)
3 がんについて	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ、様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて、理解できるようにする。 <p>II 学習活動</p>	②			<ul style="list-style-type: none"> がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ、様々なものがあること、また、がんの予防には、生

	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師の話聞き、がんの発生要因とその種類、健康や生命への悪影響、治療法やがんの現状について概要を理解する。 2 (1)がんの発生要因 (2)日本におけるがんの現状 ～5年生存率の変化から～ (3)「がん予防の12ヶ条」の変遷 ～留意すべき生活習慣の変化を知る～ 上記についてグループ分けをし、調べ学習を行う。 3 調べた内容をモニターで共有しながら、全体で理解を深める 4 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。 			<p>活習慣病と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。【知識・技能②】(ワークシート)</p>
<p>④ がんの予防について</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病及びがんとその予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組むことができるようにする。 ・生活習慣病及びがんの予防に関する課題について、適切な解決方法を選択するとともに、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時を振り返り、がんの概要を確認する。 2 予防につながる生活習慣について、現在の自分の生活習慣を焦点化し、その改善に向けた具体策について、タブレット端末を活用した調べ学習を行う。 3 自分で調べたことをグループで共有し、モニターで表示しながら、全体で理解を深める。 4 これまでの学習を元に、短期／中期／長期的ながん予防の具体策を挙げ、発表する。 5 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめる。 		<p>②</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病及びがんとその予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】(観察) ・生活習慣病及びがんの予防に関する課題について、適切な解決方法を選択するとともに、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。【思考・判断・表現②】(ワークシート・観察)

7 本時の学習と指導（4 / 4）

(1) ねらい

- ・生活習慣病及びがんとその予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度①】
- ・生活習慣病及びがんの予防に関する課題について、適切な解決方法を選択するとともに、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。

【思考・判断・表現②】

(2) 準備

- ・教科書 ・ワークシート ・タブレット端末 ・掲示用モニター ・画用紙

(3) 本時の展開

時間	学習内容・活動		指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 6分	1 前時を振り返り、活動の流れを確認する。	全体	○前時にまとめた Jamboard をモニターに提示し、振り返りを行う。 ○本時の課題を理解し、学習の見通しを持たせる。
	2 本時の課題を知る。		
	【課題】 がんの予防に向けて、今そしてこれからの自分にできることはなんだろう		
			○これまでの学習を活かし、課題を意識した活動につながるよう、発問を工夫する。
展開 34分	3 話し合い活動 ○グループで話し合うテーマを焦点化する。 ・休養／睡眠 ・運動 ・食生活 ・歯みがき ○タブレット端末を使用し、調べ学習を行う。 ○調べたことを、班の中でまとめる。 ○まとめた内容のキーワードを黒板に提示させる。	グループ	○グループで話し合うテーマを焦点化し、深まりが持てるようにする。 ○タブレット端末で調べ、ワークシートにまとめさせる。 ○話し合い活動で出た内容のキーワードを画用紙で提示させ、それを元に発表するよう指導する。 ◆生活習慣病及びがんの予防に関する課題について、適切な解決方法を選択するとともに、その理由などを、他者と話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。 【思考・判断・表現②】（ワークシート・観察）

	<p>○グループ発表</p>	個人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>△努力を要すると判断される状況 (C) の生徒への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を確認させ、調べる内容を焦点化させる。 <p>◎十分に満足できると判断される状況 (A) の生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に向け、よりわかりやすく資料や発表内容を整理させる。 </div> <p>○各班でまとめたものを発表させる。</p> <p>○自らの調べや、各班の発表を受け、自らの生活習慣の改善に活かせるようなことをワークシートにまとめさせる。</p>
<p style="text-align: center;">ま と め 10 分</p>	<p>4 まとめ</p> <p>○これまでの学習を元に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「半年後の自分に向けて」(短期) ・「20歳の自分に向けて」(中期) ・「30歳の自分に向けて」(長期) <p>それぞれについて、具体的な生活習慣の改善や、行動目標を挙げ、発表する。</p> <p>5 振り返り</p> <p>○教師の話聞く。</p> <p>○本時の学習の振り返りを、ワークシートにまとめる。</p> <p>○生徒の振り返りを発表させる。</p>	個人	<p>○設定した期間における自分の年齢を意識した行動目標となるよう、助言する。</p> <p>○ワークシートにまとめたまとめを、2、3名発表させる。</p> <p>◆生活習慣病及びがんとその予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】(観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>△努力を要すると判断される状況 (C) の生徒への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容や、発表内容を確認し、自らの生活習慣と比較させる。 <p>◎十分に満足できると判断される状況 (A) の生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容や、発表内容を受け、今後の行動目標について、具体的にまとめている。 </div> <p>○ワークシートにまとめた振り返りを、2、3人発表させる。</p> <p>○生徒の振り返りから、ねらいに正対したキーワード等を用いてまとめる。</p> <p>○次回の学習に見通しを持たせる。</p>

8 事後学習

	学習のねらい・活動	留意点・評価
特別活動	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者や家族の思いや悩みに気づき、望ましい関わり方について考え、理解することができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健体育（保健分野）におけるがんに関する内容を復習する。 2 ゲストティーチャーの話を聞く。 3 ゲストティーチャーの話をもとに、がん患者への理解と共生について考える。 4 本時の振り返りをする。 	<p>○身近にがん経験者がいる生徒には事前に声かけをするとともに、授業中も観察し、十分配慮する。</p> <p>○保健体育（保健分野）におけるがんに関する事項を確認しながら、正しい知識が、がん患者への正しい理解や関わり方につながることを伝える。</p>

9 板書計画

課題	がんの予防に向けて、 今そしてこれからの自分にできることはなんだろう ⇒より具体的に考えて、班でまとめよう	
①食生活	③休養／睡眠	まとめ
生徒から出たキーワード	生徒から出たキーワード	○半年後
	生徒から出たキーワード	○20歳・・・喫煙／飲酒を考える
		○30歳・・・定期検診／早期発見
②運動	④歯みがき	振り返り
生徒から出たキーワード	生徒から出たキーワード	～情報をアップデートしながら がんと「正しく」付き合おう～

1. 最新がん統計のまとめ

- 2018年に新たに診断されたがんは980,856例（男性558,874例、女性421,964例）*
*性別不詳があるため男女の合計が総数と一致しません。
- 2019年にがんで死亡した人は376,425人（男性220,339人、女性156,086人）
- 2009～2011年にがんと診断された人の5年相対生存率は男女計で64.1%（男性62.0%、女性66.9%）
- 日本人が一生のうちのがんと診断される確率は（2018年データに基づく）
男性65.0%（2人に1人）
女性50.2%（2人に1人）
- 日本人のがんで死亡する確率は（2019年のデータに基づく）
男性26.7%（4人に1人）
女性17.8%（6人に1人）

「がんを防ぐための12か条」新旧比較

	がんを防ぐための12か条（1978年）	がんを防ぐための新12か条（2011年）
1条	バランスのとれた栄養をとる	たばこは吸わない
2条	毎日、変化のある食生活を	他人のたばこの煙をできるだけ避ける
3条	食べすぎをさけ、脂肪は控えめに	お酒はほどほどに
4条	お酒はほどほどに	バランスのとれた食生活を
5条	たばこは吸わないように	塩辛い食品は控えめに
6条	食べ物から適量のビタミンと繊維質のものを多くとる	野菜や果物は豊富に
7条	塩辛いものは少なめに、あまり熱いものは冷ましてから	適度に運動
8条	焦げた部分は避ける	適切な体重維持
9条	かびの生えたものに注意	ウイルスや細菌の感染予防と治療
10条	日光に当たりすぎない	定期的ながん検診を
11条	適度にスポーツをする	身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
12条	体を清潔に	正しいがん情報でがんを知ることから

がんの5年相対生存率（2020.3.17更新）

	病期（ステージ）※				全 体		
	I 期	II 期	III 期	IV 期	0	50	100 (%)
前立腺（男）	100.0	100.0	100.0	66.9	100.0		
乳（女）	100.0	96.1	80.0	40.0	93.7		
甲状腺	100.0	97.8	100.0	72.6	92.4		
乳（男）	100.0	94.7	79.8	39.8	90.6		
子宮体（女）	96.1	88.7	66.2	24.2	86.4		
喉頭	96.8	91.2	75.0	45.7	79.5		
子宮頸（女）	93.2	82.2	66.1	28.3	76.8		
大腸	98.8	90.3	83.8	23.1	76.8		
胃	97.2	62.8	49.0	7.1	74.9		
腎臓など	95.8	76.8	72.1	15.3	69.4		
膀胱	87.7	67.7	50.6	24.0	69.0		
卵巣（女）	94.1	75.1	50.1	32.9	66.2		
食道	88.5	56.7	29.6	14.2	46.0		
肺	83.3	48.8	22.7	5.8	45.2		
肝	62.3	37.3	14.8	0.9	37.0		
胆嚢胆道	57.4	25.7	14.6	2.3	28.6		
膵臓	42.9	16.8	7.4	1.5	9.9		
全体					68.4		

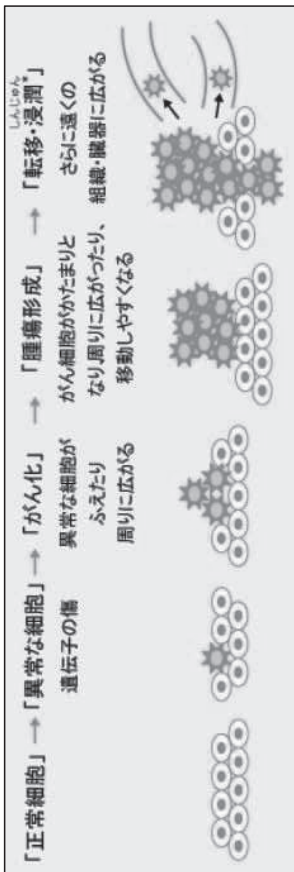
※ がんの進行度を判定する基準として国際的に活用されている国際対がん連合採用のがんの分類方法。がんの広がり方を基準として、大きく0期、I期、II期、III期、IV期の5段階に分けられている。

（出典：「国立研究開発法人国立がん研究センター 2020.3.17 更新」より作表、作図）

がんの予防

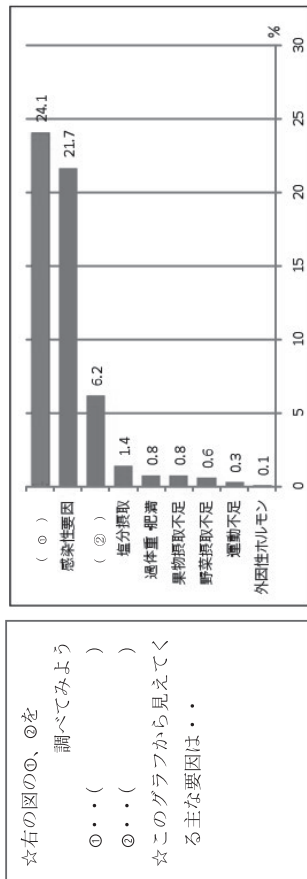
2年 組 番 氏名

- 「がん」ってどんな病気だろう
 - 身体の正常な細胞が異常な細胞（がん細胞）に変化して勝手に増殖することにより、周囲の大切な組織を壊してしまう病気



☆調べたことや、みんなの発表を聞いて、分かったことをまとめよう

- がんの発生要因はなんだろう



- 日本におけるがんの現状について調べてみよう

☆「がんの罹患率」や「がんの5年生存率」からわかることをまとめよう

- 普段の生活習慣から、気をつけるべきことを調べ、班でまとめてみよう

① ()	② ()
③ ()	④ ()

- 今後の自分の具体的な行動目標を考えよう

☆半年後の自分に向けて
☆20歳の自分に向けて
☆30歳の自分に向けて

- 振り返り

令和3年度埼玉県「がん教育」授業研究会（高等学校）実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和3年11月12日（金）

4 会 場 県立北本高等学校 北本市古市場1-152
 ※駐車場がありません。公共交通機関で来校願います。
 ※会場案内参照

5 参加対象 高等学校・特別支援学校教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|------------|
| (1) 受付 | 13時00分～ | (A棟1F被服室) |
| (2) 公開授業 | 13時30分～14時20分 | (B棟5F視聴覚室) |
| (3) 全体会 | 14時30分～14時45分 | (A棟1F被服室) |
| (4) 研究協議 | 14時45分～16時30分 | (A棟1F被服室) |

7 公開授業

学年	授業者	単元名
1年	川尻 鈴ノ介 教諭	保健体育科（科目保健） 「(1) 現代社会と健康」 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	松中 直司
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主任指導主事	遠井 学
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	咲間 悟
埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
県立新座高等学校	教 諭	大屋 将人
県立杉戸高等学校	養護教諭	米本 真弓
県立けやき特別支援学校	養護教諭	川端 奏子

保健体育科（科目保健）学習指導案

令和3年11月12日(金) 第5校時 多目的室④

第1学年3組

男子21名 女子9名

指導者

教諭 川尻 鈴ノ介

1 単元名 「現代社会と健康」(ウ)生活習慣病などの予防と回復

2 単元について

「現代社会と健康」(本単元)では、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要がある。

本単元では、以下の内容を中心として構成される。

- ① 我が国において現代の健康課題がみられることや健康の考え方が変化してきていること
- ② 健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること
- ③ 感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した対策が必要であること
- ④ 生活習慣病などの予防と回復には、調和のとれた生活の実践とともに疾病の早期発見、治療及び社会的な対策が必要であること
- ⑤ 喫煙、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であること
- ⑥ 精神疾患の早期発見や罹患後の対策が必要であること

以上を踏まえた上で、来年度から高等学校において年次進行で実施となる新学習指導要領の「がん教育」の内容については、(ウ)生活習慣病などの予防と回復の時数を4と定めることとし、そのうちの2時間を充てるものとする。生活習慣病の予防(1次予防)に加えて、早期発見・早期治療(2次予防)への理解と個人の取組に限らず、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解することがメインとなる。

3 生徒観 (学習状況の実態)

明るい雰囲気があり、真面目な生徒が多い印象のクラスである。授業においても真剣に話を聞いたり、メモを取ったりと学習に向かう態度も良好である。一方で、学習を苦手とする生徒も一定数おり、指導においては、興味・関心を引き出しつつ、安心して学ぶことができる環境づくりが重要であると考えている。アンケートの結果から、がんについての理解が十分な生徒もいる一方で、誤った理解をしている生徒もいるため、生徒の理解を深める授業を展開するための準備が必要であると考えている。

4 教師の指導観

がん教育の目標達成のため、健康の保持増進のために自らの生活習慣を改善していく資質・能力や早期発見・早期治療を目的とした行動選択、さらには社会的取組についても思慮を深められるよう努める。また、がんについての学習に限らず、自他の健康に関心を持ち、その課題を解決し、明るく豊かで活力ある生活を営む資質や能力を育てていきたいと考えている。今年度より、中学校の新学習指導要領によるがん教育が全面実施となり、移行期間を含めて、現中3生まではがん教育を受けているが、今回授業を実施する学年の生徒はがん教育を受けていないため、基礎的な知識も含め丁寧な指導を心掛けながら、適切な理解を促していく。

I 学習(指導)内容の明確化

学習内容の理解と深まりを図るため2時間扱いとする。

- ・1時間目：がんの基本的な知識の習得(種類・経過、我が国のがんの状況)などについて学習する。
話し合い活動を通して、予防に対する理解を深める。

- ・2時間目：がんの予防について図や表から情報を読み取り、共有し、がんの予防について理解を深める。自他の健康のために自らが取るべき行動や社会的な取組を考える中で、実践力の育成につなげる。

II 基礎的・基本的な知識の習得と知識を活用する学習活動の実践

1時間目の活動では、一斉教授型の授業スタイルでがんに関する基本的な知識の習得を目指すことに加えて、自らが課題を見つけ、タブレット端末を活用したり、話し合いをしたりする中で、適切に対応するための方策(予防)について考える機会とする。2時間目の活動では、1時間目で学習したがんについての知識や理解したことを共有して、より深い学びにつなげる学習活動を展開する。また、対話的な活動を行い、指導のねらいである「がん予防」の実現に向けた行動選択につなげるものとする。

III 学習内容を主体的に取り組ませるための教材の工夫

・ICTの活用

本時では、プレゼンテーションソフトを活用して授業を展開する。豊富な情報を効率的に生徒に提供でき、視覚的に見やすくわかりやすいことから生徒の理解の促進につながると考える。また、板書する時間を省略することができ、生徒の活動時間を確保することや生徒の思考の助けとなることなどが期待できる。

・資料の工夫

配布する資料を色付きで作成し、生徒が興味・関心を持ちやすいよう工夫することで、学習意欲の向上につなげる。また、グラフや表等の視覚に訴える資料の提示により、生徒の思考を促す一助とする。

5 単元の目標

- (1) 生活習慣病などの予防と回復について、理解することができるようにする。
- (2) 生活習慣病などの予防と回復に関する情報から自他の課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を向上したり、健康を支える環境づくりにつなげたりする視点から、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。
- (3) 生活習慣病などの予防と回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。</p> <p>②生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	<p>①生活習慣病などの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

(2) 単元の指導と評価の計画 (4時間扱い) 本時 4/4 時

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
1 生活習慣病などの予防と回復	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができるようにする。 生活習慣病などの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組むことができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 概要説明 発表準備(ICT活用) <ul style="list-style-type: none"> 脳血管疾患 虚血性心疾患 高血圧症 脂質異常症 糖尿病 歯周病 <p>以上の項目から選び発表する。同時に予防と回復についてもまとめさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 発表練習 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などについて調べる際には確かな情報であるかに留意し、発表準備を進めること 		①	①	<p>【思・判・表①】</p> <p>(学習活動2)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p> <p>【態①】</p> <p>(学習活動2)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>
2 生活習慣病などの予防と回復 II	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解できるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時の復習 発表 振り返り・まとめ <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること。 生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断や正しい情報の発信など社会的な対策が必要であること。 日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること。また、運動や食事について性差による将来の健康課題があること。 	③			<p>【知・技③】</p> <p>(学習活動2)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>
3 生活習慣	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解できるようにする。 <p>※原因については次回の授業で詳しく扱うこととする。</p>				

病 な ど の 予 防 と 回 復 Ⅲ	<p>Ⅱ 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本人の死因について 2 がんの基本的知識 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国のがんの現状 ・がんとは何か ・がんになる要因 ・がんの種類 3 グループ活動 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、原因も様々にあること。 ・誰にでもがんにかかる可能性があり、確かな知識をもとに予防していくことが大切であること。 	②			<p>【知・技②】</p> <p>(学習活動2)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>
④ 生 活 習 慣 病 な ど の 予 防 と 回 復 Ⅳ	<p>I ねらい※一部文言省略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解できるようにする。 ・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 <p>Ⅱ 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時の復習 2 発表 <ul style="list-style-type: none"> ・がんと生活習慣の関係 ・がんの早期発見とがん検診の重要性 3 自他の健康に配慮した行動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診受診率向上に向けた社会的取組 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは誰にでも起こりうるものである。罹患の危険性を減らすために、生活習慣の改善を図るなど、いまの自分にできることを心がけることが必要であること。 ・日頃の生活習慣の中で、がんになる原因となるものは何かを判断すること。 ・定期的に健康診断やがん検診などを受診することが、がんを早期発見し、治す可能性を高めること。 ・社会的取り組みとして市町村のがん検診があること。 	①	②		<p>【知・技①】</p> <p>(学習活動2)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>(学習活動3)</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>

7 本時の学習と指導 (4/4)

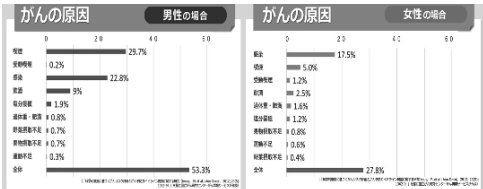
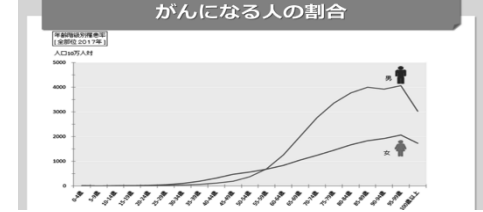
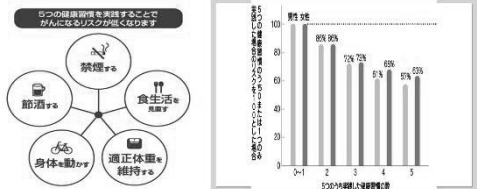
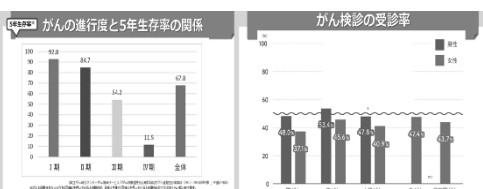
(1) ねらい

- ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解できるようにする。 **【知識・技能】**
- ・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 **【思考・判断・表現】**

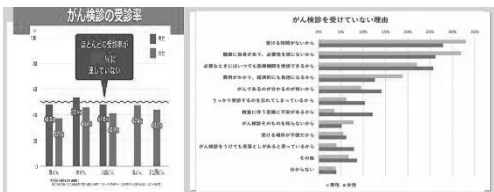
(2) 資料及び準備するもの

プロジェクター、スクリーン、ノートパソコン、ワークシート、水性マーカー、映写機、マイク、消毒グッズ

(3) 展開

時間	学習の内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 8分	1 挨拶・出席確認 2 本時の説明と確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 課題 がんを予防するために、私たちができることはなんだろう。 </div> 3 前時の振り返り ・がんの基礎知識(我が国の現状、がんとは、治療法、緩和ケア) ・グループ活動の振り返り	○挨拶、出欠・座席の確認をする。 ○本時の学習の流れを理解し、学習の見通しをもたせる。 ○前時の内容「がん」の基礎知識について確認する。 ○グループ活動をそれぞれ振り返らせる。
展開 32分	4 グループ活動の発表(20分) グループ A・・・がんの原因  <p>(予想される回答) 男性の約 50%、女性の約 27%が生活習慣や感染が原因だということ。</p> グループ B・・・がんになる人の割合  <p>(予想される回答) 女性よりも男性ががんになりやすい 男性が 60 歳より急激に増加している</p> グループ C・・・がんリスクと生活習慣  <p>(予想される回答) 生活習慣の実践により、がんのリスクを減らすことができる。</p> グループ D・・・がんの 5 年生存率  <p>(予想される回答) 早期発見により生存率が上がる 受診率は約 50%である</p>	○課題について、班ごとグループごとのワークシートにまとめたものを共有し、発表させる。 ○各班の発表をしっかりと聞き、差異にも注目しながらメモを取るよう促す。 ○ウイルス・細菌の感染などほかの生活習慣との違いが出なかった場合、補足の説明をする。 ○年代におけるがん罹患の割合から、男女に差があることを理解させる。また男女差の背景にも着目させ、一層の理解を促す。 ※男性の 60 代からの上昇…リスクを高める生活習慣 ※女性の 20 代から 50 代前…女性特有のがん ○生活習慣の実践により、がんのリスクを減らせることを確認し、具体的な取組についても考えさせ、発表させる。 ○対象年齢や生活様式、職業等それぞれ個人差があることにも触れ、自分事として捉えるのはもちろん、他者に対しても考慮できる考え方があることを伝える。 ○がんを防ぐための新 1 2 か条からもヒントを得る。 ○早期発見により、生存率が上がることを理解させる。一方で、受診率には課題があることに着目させる。 ○早期発見により 9 割以上のがんが治る一方で、検診を受けない人が 50%を超えることへの疑問を投げかける。 (○受診率に対する考え方は様々であり、生徒の中で受診率が 50%でも高いというイメージを持つものがいた場合、否定せず、今回の授業で得た知識から、受診率を上げる必要性に気づくことができる声掛けを行う。)

グループ E・・・がん検診の受診率



(予想される回答)

受診率…50%に満たない
受診しない理由…お金や時間がない

以上、資料や図からがんの原因を明らかにし、改めてがんを予防する為にできることを深く理解する。

5 問題提起・課題解決

【発問】
どうすればがん検診の受診率をあげることができるか

グループで話し合い (14分)

発問の回答を画用紙にまとめる

(予想される回答)

- 検診を無料にする
- 検診のために休みやすくする
- がんの正しい知識を広げる
- 家族に呼びかける
- 国の法律で検診を定める など

6 発表 (3分)

○受診率には課題があることに着目させる。また、なぜ受けないのか明らかにさせる一方で、検診についての正しい知識を伝え、今一度受診率をあげることの重要性を問う。

- ◆生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。

【知識・技能】

「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て
△グラフや表の数値の部分に着目させる。
△前時のメモや仲間の発言を参考にさせる。
「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿
○前時の授業で得た知識と実際の生活行動を結び付けて、自分の考えを発言している。
○周りの意見をメモするなど、自分の考えに取り入れている。

- 発表を受けて課題を明確にし、がん検診の重要性を理解した上で、社会的取り組みについても考えさせる。
- 考えが難しい場合は、タブレット端末を用いてもよいが、極力使わないものとし、生活の中にヒントがあることを伝え、考えさせる。活発な議論がなされるように声掛けを続ける。

- ◆がんの予防について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。

【思考・判断・表現】

「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て
△各グループの発表内容から、キーワードを確認させるとともに、身近な生活の中にあるヒントに着目するよう促す。声掛けを行う。※コロナワクチンの話
教育や自治体について
△仲間との話し合いの中で自分なりに考えさせる。
「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿
○クラス全体で共有する中で、理解を深める。

終末
8分

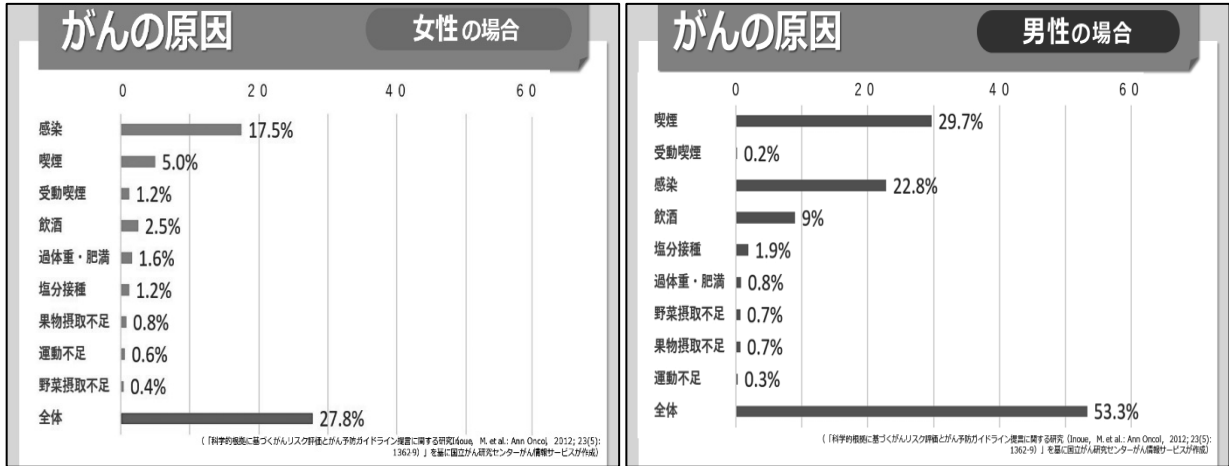
7 振り返り・まとめ・次回予告

- 予防の重要性を振り返るとともに、ヘルスリテラシーの観点からがん情報との付き合い方についても考えさせる。
- ワークシートに今回の自分の中で起こった変化や新たな理解について記述させる。
- 挨拶、ワークシートの提出を指示する。

8 挨拶

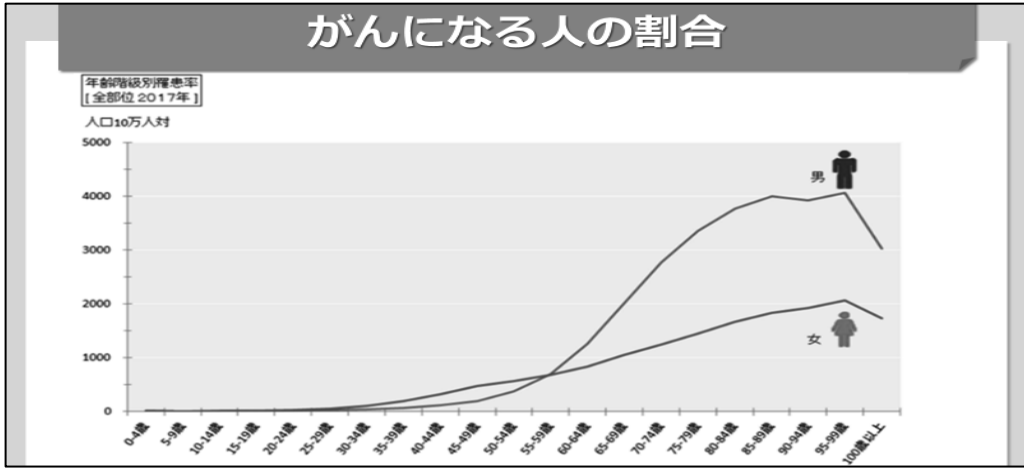
グループ A

- グラフから読み取れることは何か？
- グラフを踏まえて、がん予防のためにできることを考えよう。



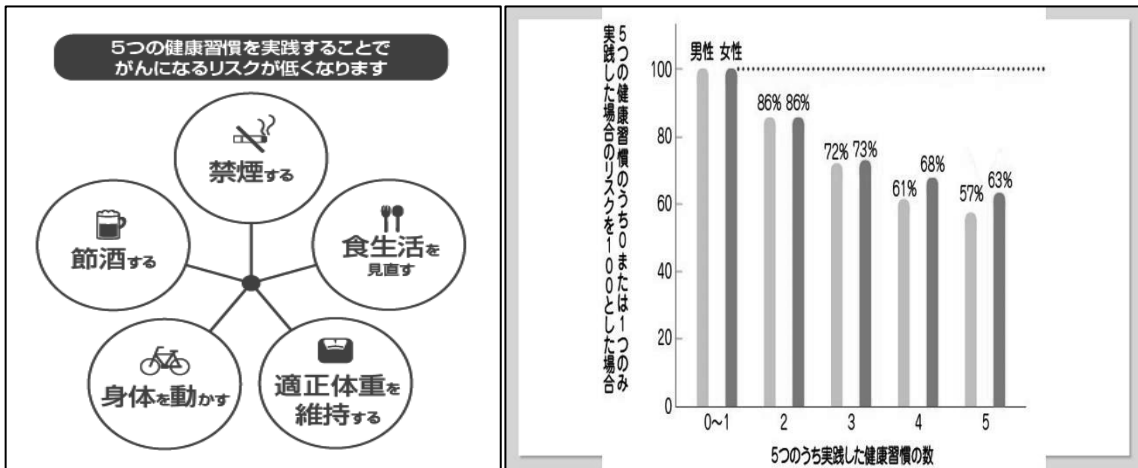
グループ B

- グラフから読み取れることは何か？
- 資料を踏まえて、がん予防のためにできることを考えよう。



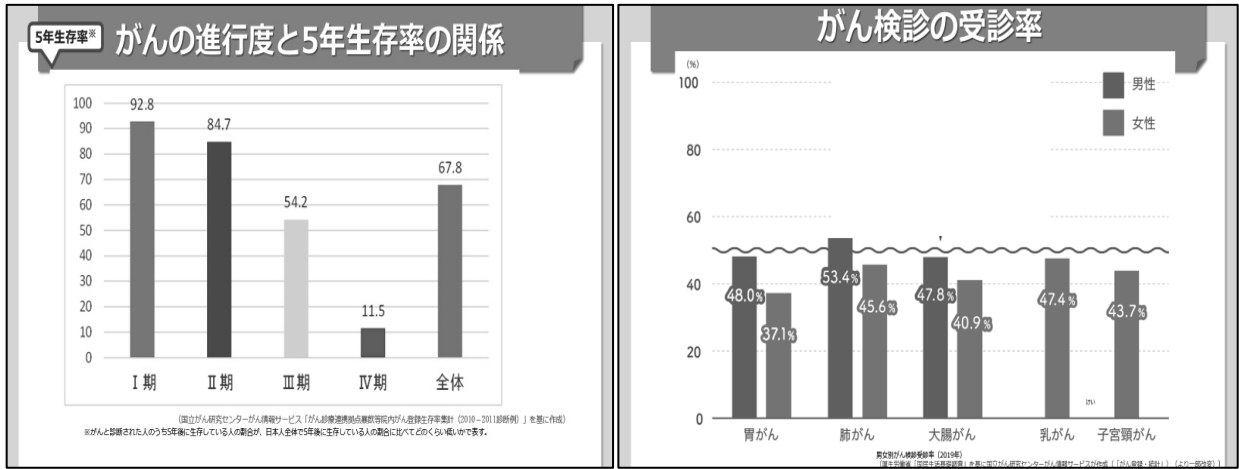
グループ C

- 図から読み取れることは何か？
- 資料を踏まえて、がん予防のためにできることを考えよう。



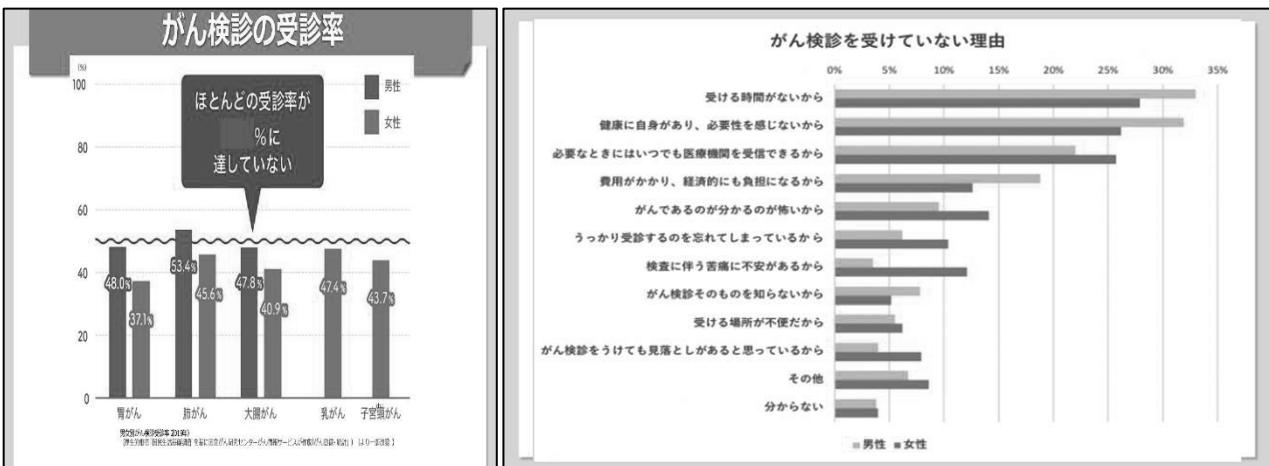
グループ D

- グラフから読み取れることは何か？
- グラフを踏まえて予防のためにできることを考えよう。



グループ E

- グラフや表から読み取れることは何か？
- 資料を踏まえて、がん予防のためにできることを考えよう。



がん教育ワークシート

組 番 氏名 _____

〇がんについてどのようなイメージがありますか？

〇×モ

-
-
-
-
-

〇グループ活動・発表

他の班の発表から、わかったことを書き出そう！

- A
- B
- C
- D
- E

〇がん予防について私たちができていることを考えよう！

個人
社会

〇まとめ

がんについて新しく知ったことやイメージがどのように変わったか書いてみよう！

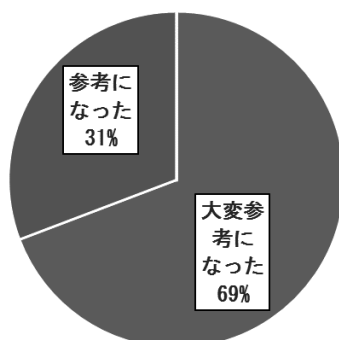
令和3年度がん教育授業研究会（県立北本高等学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者 13名	9	4	0	0

※参加者内訳：高等学校教諭9名、特別支援学校教諭3名、がん経験者1名

高等学校授業研究会



○授業内容について

- ・予防について多方面から考えさせており、複数の資料の関連がしっかりしていた。スライド資料も工夫され、生徒の理解につながるものだった。【高等学校・教諭】
- ・前時の振り返りから、本時へのつながりがスムーズで、生徒の発表もよかった。教師のコメントや補足説明もわかりやすかった。様々なデータがある中、授業のまとめで「情報はアップデートされていくもの」というところが腑に落ちた。【高等学校・教諭】
- ・誰でも知っている「がん」であるが、実際は詳しく知らないため、正しい情報を伝えなくてはいけないと感じた。【特別支援学校・教諭】
- ・教師生徒間の信頼関係の良さ、配布資料やスライド資料の工夫など参考になった。指導者の話の「知識は増えるほどに未知(無知)との接点も増える」という言葉に感銘を受けた。【高等学校・教諭】

【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・自分自身が正しい知識を身に付けることが必要であり、生徒だけでなく、教師自身も自分事として捉え、取り組んでいくことが重要。【高等学校・教諭】
- ・「がん＝命を落とす」というイメージが強いため、正しい知識を伝えることが大切。指導に際して、配慮も大事。【高等学校・教諭】
- ・誤った知識をもったまま社会へ送り出してはいけない。情報がアップデートされていくことについて理解することの必要性を伝え、今後は生徒自身が正しい情報を得ていかなければいけないことを理解させる。【高等学校・教諭】
- ・効果的な学習活動(発表・オープンクエスチョンによる思考する活動・話し合い・資料の読み取りなど)の工夫。【高等学校・教諭】
- ・特別支援学校における指導方法。保護者の理解や啓発。がんを扱うことを通じて、「生活習慣病などその他の疾病の予防」にも通じる「生活習慣の改善」などに繋げていくこと。【特別支援学校・教諭】

令和3年度埼玉県がん教育推進連絡協議会 設置要綱

(設置)

第1条 学校におけるがん教育の充実を図るため、「がん教育推進連絡協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(事業)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事業を所掌する。

- (1) がん教育総合支援事業を推進するための支援体制の協議、検討
- (2) がん教育総合支援事業を推進するために係るその他の取組

(組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 協議会に委員長を置き、埼玉県教育局県立学校部保健体育課長をもって充てる。
- 3 協議会に副委員長を置き、委員の中から互選する。

(運営)

第4条 委員長は、協議会を総括する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、令和4年2月28日までとする。

(会議)

第6条 委員長は、協議会を招集し、議長を務めるものとする。

- 2 委員長が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外の県及び市町村等、関係機関の職員の出席を要請することができる。

(事務局)

第7条 協議会は、会務を処理するために、事務局を埼玉県教育局県立学校部保健体育課内に置く。

(経費)

第8条 協議会の経費は文部科学省から交付される委託経費をもって充てる。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

附 則

この要綱は、令和3年6月15日から施行する。

別 表（第 3 条関係） 委員

学識経験者
医師
がん経験者
疾病対策課副課長
校長
教諭
養護教諭
市町村教育委員会指導主事
保健体育課長
保健体育課主席指導主事

令和3年度 がん教育総合支援事業（がん教育推進計画）

（文部科学省委託事業）

背景

- ・平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。
- ・がん対策推進基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。
- ・学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされ、新学習指導要領に対応したがん教育の実施について検討する必要がある。

年間約37万人以上の国民
ががんで死亡している。
埼玉県のがん検診受診率が
50%未満である。

課題

- ・がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
- ・教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、

がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がん教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

がん教育推進連絡協議会

- ・新学習指導要領に対応したがん教育に関する計画作成について指導・助言をする。
（・教科、授業展開方法の検討 ・外部講師の活用体制の整備 ・関連機関との連携等）
- ・取組結果について、成果を検証する。
※がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、小・中学校、
県立学校等へ配布

【構成委員22名】

学校関係者、学校医、医療
機関関係者、学識経験者、
がん経験者、行政関係者等

がん教育指導者研修会

- がん教育を推進していく教職員・外部講師を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

がん教育授業研究会

- 小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を行う。

健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成する。
がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

令和3年度 「がん教育総合支援事業」 がん教育推進連絡協議会 名簿

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏名	職名	所 属
1	埼玉大学	七木田文彦	准 教 授	埼玉大学教育学部
2	一般社団法人埼玉県医師会	丸木 雄一	理 事 長	埼玉精神神経センター
3	がん専門医	儀賀 理暁	教 授	埼玉医科大学総合医療センター
4	がん経験者	近藤 明美	社 会 保 険 労 務 士	近藤社会保険労務士事務所
5	埼玉県公立小学校校長会	長井 圭子	校 長	越谷市立大沢小学校
6	埼玉県中学校校長会	今村 美己	校 長	熊谷市立玉井中学校
7	埼玉県高等学校長協会	金室 紀夫	校 長	県立北本高等学校
8	埼玉県小学校体育連盟	栗田 顕	教 諭	深谷市立深谷西小学校
9	埼玉県中学校体育連盟	中村 美紀	教 諭	松伏町立松伏第二中学校
10	埼玉県高等学校保健体育研究会	大屋 将人	教 諭	県立新座高等学校
11	埼玉県養護教諭会（小学校）	小林 牧葉	養 護 教 諭	所沢市立安松小学校
12	埼玉県養護教諭会（中学校）	根岸 幸代	養 護 教 諭	熊谷市立荒川中学校
13	埼玉県養護教諭会（高等学校）	米本 真弓	養 護 教 諭	県立杉戸高等学校
14	埼玉県養護教諭会（特別支援学校）	川端 奏子	養 護 教 諭	県立けやき特別支援学校
15	授業研究校代表（小学校）	萩野 貴之	指 導 主 事	草加市教育委員会教育総務部指導課
16	授業研究校代表（中学校）	高橋 一也	指 導 主 事	加須市教育委員会学校教育部学校教育課
17	授業校授業者（高等学校）	川尻 鈴ノ介	教 諭	県立北本高等学校
18	県保健医療部疾病対策課	矢萩 義則	副 課 長	県保健医療部疾病対策課
19	県立学校部保健体育課	松中 直司	課 長	県教育局県立学校部保健体育課
20	県立学校部保健体育課	新井 克仁	主 席 指 導 主 事	県教育局県立学校部保健体育課

1	事務局	遠井 学	主任指導主事	県教育局県立学校部保健体育課
2	事務局	芝 和俊	主 幹	県教育局県立学校部保健体育課
3	事務局	咲間 悟	指 導 主 事	県教育局県立学校部保健体育課